The background features a white space with several blue circles of varying sizes and shades. Two thin blue lines intersect at the top left, forming a large 'V' shape that frames the text. The circles are arranged in a vertical line, with the largest one at the top, a smaller one in the middle, and a large one at the bottom right, partially cut off by the edge of the page.

GET2008

活動報告書

Glocal Energy Transfer

目次

| | |
|-------------------------|---|
| ●GET2008 代表挨拶 | 3 |
| ●GET2008 顧問：太田浩准教授からの挨拶 | 4 |
| ●年間スケジュール | 5 |
| ●グランドテーマ「移民」 | 6 |

香港プロジェクト報告

| | |
|------------------------------|--------|
| ●香港プロジェクトチーフ挨拶 | 8 |
| ●香港側顧問：岡田先生からの挨拶 | 9 |
| ●メンバー紹介（日本、香港） | 10, 11 |
| ●Exchange Program（受け入れ）報告 | 12～20 |
| ●Exchange Program（訪問）報告 | 21～33 |
| ●企業・機関訪問報告 ①しんじゅく多文化共生プラザ | 34 |
| ②香港経済貿易代表部 | 35, 36 |
| ③御舎僱用公司（Royal House Company） | 37 |
| ④香港明愛 | 38 |
| ●Joint Forum（受け入れ）報告 | 39, 40 |
| ●勉強会報告 ①香港について | 41～43 |
| ②移民について | 44, 45 |
| ③英語について | 46～48 |
| ●Joint Forum（訪問）報告 | 49, 50 |
| ●メンバー感想 | 51～56 |

スイスプロジェクト報告

| | |
|---------------------------|---------|
| ●スイスプロジェクトチーフ挨拶（日本、スイス） | 58, 59 |
| ●メンバー紹介（日本、スイス） | 60～63 |
| ●Exchange Program（受け入れ）報告 | 64～76 |
| ●Exchange Program（訪問）報告 | 77～89 |
| ●企業・機関訪問報告 ①東芝府中工場 | 90 |
| ②国連大学 | 91 |
| ●勉強会報告 | 92～94 |
| ●Joint Forum（受け入れ／訪問）報告 | 95～99 |
| ●メンバー感想 | 100～109 |

GET2008 代表挨拶

木下 詠津子

2008 年は GET (Glocal Energy Transfer) が設立してからちょうど十周年という記念すべき年です。GET の歴史においても重要な区切りであるこの年に、私達 GET2008 は、香港・スイス両プロジェクトの活動を終え、こうして報告を行うことができました。

異文化交流団体として「Glocal なバランス感覚」の獲得を目指すために立ち上げられた GET は、今日、国際企画運営団体として「自己の発信、社会への発信」を理念に掲げ、活動を行っています。名称の変更はあれ、GET の団体としての本質はこの両者にそれぞれに現れていると言えます。

GET のメインイベントである二週間の相互ホームステイ (Exchange Program) は、前者の達成のために、重要な役割を果たしてきました。ホームステイという形を取り、パートナーシップのもとお互いの地域に滞在するという特徴的な活動は、授業の中だけでは得ることの出来ない様々な知見を獲得できる貴重な機会となっています。こうした双方向的な海外学生との「交流」は、現在においてもその価値が色あせることはありません。むしろ、そうした「直の」つながりが希薄になり、一方で、グローバル化の波を自分の中に接点を見出せずに感じているというのが現状ではないでしょうか。設立時の先見的な理念を、今、改めて見直す意義はここにあると思います。

また、団体における「企画・運営」に携わることも、GET の歴史の中で新たに重点が置かれてきました。少人数による運営、一年プロジェクトという形態は、それぞれのメンバーが主体的に活動に参加するという意識を高めます。メンバーは自身の団体に対する「責任」と同時に、自分の「不可欠性」を自覚するようになります。GET は、発想や計画性といった社会において必要とされる力を身につける場としても魅力的な団体と言えます。

私は GET において、一年次に香港プロジェクト、二年次に代表としてスイスプロジェクトに参加しました。一年次での体験は、今までに意識することのなかった香港と日本の関係を考え、香港やその他のアジアの国々に強い関心と興味を抱くきっかけとなりました。教室で受ける授業だけでは足りない、こうした「熱情」を湧き上がらせるきっかけを提供してくれた GET の活動を、より多くの後輩に体験してもらいたい、そのような思いから GET2008 の代表を引き受けました。

GET の OB・OG には、留学をする人、海外インターンに参加する人、国際機関で働く人など、GET をきっかけに広いフィールドで活躍する人が多くいます。同時に、企画や運営を行う魅力を感じ、リーダーシップを発揮して生き生きと仕事をしている人もいます。この GET2008 を通して身につけた「自己の発信、社会への発信」をする素地をどう生かすかは、メンバーのこれから次第です。その意味において、GET2008 が終わりを迎えることはありません。それぞれが、GET のくれた芽を育て、それが大成することを願って、代表の挨拶と代えさせていただきます。

GET:学生の、学生による、学生のための国際企画運営プロジェクト

国際戦略本部准教授

太田 浩



大学における海外研修や国際交流プログラムは、もはや当たり前の時代となりましたが、GETはそれらのプログラムと明らかに一線を画しています。それは、大学が用意したプログラムに学生が受動的に参加するのではなく、プロジェクトそのものを学生自らが立ち上げ、運営しているところです。まさに「熱い想いをカタチにする場」であると言え、冷めた学生には務まらない、熱のこもったプロジェクトを毎年展開しています。海外のカウンターパート（GET2008の場合は、スイスの University of St. Gallen と香港の City University of Hong Kong の学生）とは、受入・派遣の双方向での交流を行い、双方とも派遣先ではホームステイを経験します。訪問に際しては、活動や研究テーマを持って取り組み、現地滞在期間中にフィールドワークを行い、そのフィールドワークを受入側がファシリテートします。こうした一連の活動は、参加学生の国際性の涵養、そして国境や文化を越えた能力(Transnational Competence)の習得につながっています。つまり、GETでの活動は、グローバルな視点でビジネスや社会を認識する能力を身につけるための貴重な経験を与えており、そこに集まる学生たちは、上記のような活動の理念を共有する企画・運営力の高いチームを形成しているといえるでしょう。

私がこのGETに係わるようになったGET2003以来、私の顧問としての喜びは、この「熱い想い」を共有する学生たちとの出会いであり、その成長を見届けることです。GETが設立されてから、今年で10周年を迎えますが、この10年間の活動を支えてきた学生の構成メンバーは、毎年異なっても、「熱い想い」は共通していました。それを継承することによって、メンバーが異なっても、プロジェクトを成功させることができたのだと思います。GETプロジェクトでの企画・運営・管理・調整の大部分には、苦勞、不便、そして、もどかしさが付きものです。しかし、そのような生みの苦しみがあるからこそ、プロジェクトを完了したときの達成感が何事にも代えがたく、後年振り返ったとき、GETこそ人生の転機(Life-changing experience)であったというレベルにまで昇華されることもあるでしょう。情報化、グローバル化の進展で、刺激のかつ非日常的な出来事をヴァーチャルに体験することは容易になりました。「セカンドライフ」に入れば、自宅で海外旅行をすることさえも可能です。私たちの生活は、恐ろしいほど「便利なもの」であふれかえっています。そういう時代だからこそ、学生時代にあえて「不便なこと」、「面倒なこと」に挑戦して、それを乗り越えた証としての「喜び」と「自信」を身につけてほしいと思っています。逆説的な言い方ですが、国際交流とは言葉の違い、文化の違い、考え方の違いなどの「不便さ」を、身をもって体験し、それをどう克服するかについて、挑むためにあると言えます。その経験を通して学ぶことは、「便利さ」の中で得るものより、はるかに価値のあるものであり、それが新たな挑戦へと導くでしょう。GET2008に参加した学生たちは、この報告書が終わりではなく、実は「始まり」であることを知るでしょう。

年間スケジュール

担当者：三好 藍子

| 月 | 全体ミーティング | スイスプロジェクト | 香港プロジェクト |
|----|--|---|--------------------------------|
| 5 | 活動開始／係決め 太田先生とのミーティング | | アドバイザーから引き継ぎ |
| 6 | 年間テーマ決め／追加新歓 移民についての合同勉強会 アドバイザーからビジネスマナー講習会 | アドバイザーから引き継ぎ | 受け入れ日程決定・準備 移民についての勉強会 |
| 7 | 一橋祭の準備／合宿について話し合い | スイスの基本情報についての勉強会 | 受け入れ |
| 8 | | 渉外方法を検討／受け入れ・訪問日程決定 | |
| 9 | 山中湖にて合宿（1泊2日） | | |
| 10 | 一橋祭準備 | 追加新歓・新メンバー 移民についての勉強会／金銭渉外 スイス受け入れ中のイベント企画開始 | |
| 11 | 一橋祭にてチーズフォンデュ店出店 国際サークル主体のイベント開催決定 | ディスカッション形式の勉強会／イベント企画 ダイムラークライスラー訪問 | 勉強会 |
| 12 | IFD（イベント）開催 合同勉強会 | ジョイントフォーラム（JF）の形式について話し合い イベントや訪問する企業・団体と連絡 観光地を挙げる | IFDの詳細企画 |
| 1 | 英語 HP 完成 09 新歓について話し合い | スイス大使館と連絡 JF 案作成／しおり作成開始 スイスの学生に紹介する部活との連絡 | 訪問準備／香港留学生と交流 広東語勉強会・英語の勉強会 |
| 2 | | 受け入れ中目標発表／受け入れ 反省会/訪問準備 | 訪問 |
| 3 | | 訪問 | |

グランドテーマ「移民」

文責：木下 詠津子

【設定経緯】

GET2008 では、研究活動における年間のテーマとして「移民」を選んだ。また、多様かつ包括的な視点を持って移民問題にせまるために、香港・スイス両プロジェクトのテーマを一致させた。年間テーマを設定する際に、メンバーの興味は多岐に及んだ。中でも、「格差問題」や「人権、マイノリティー問題」に関心がある者が多かった。香港における FDH や本土からの移民、スイスにおける移民労働者、日本における在日外国人と、それぞれの場所において「移民」に関するトピックは現在、社会問題として取り上げられることが多い。このような背景から、お互いの地域の現状の把握を specific な視点から行うことができ、それぞれの問題に関するディスカッションが有意義なものになると考えられ、「移民」というテーマを掲げることになった。

【訪問企業・団体・機関】

香港プロジェクト

- ・ しんじゅく多文化共生プラザ
 - ・ 群馬県大泉町
 - ・ 御舎僱傭公司 Royal House Company（香港の家事労働者 FDH の斡旋企業）
 - ・ 香港明愛（社会福祉施設）
 - ・ 香港経済貿易代表部
- （次席代表・Gilford Law 氏による移民に関するブリーフィング）

スイスプロジェクト

- ・ 国連大学
- （UNHCR 日本代表・滝澤三郎氏によるブリーフィング）
（ILO 駐日代表・堀内光子氏によるブリーフィング）

【Joint Forum】

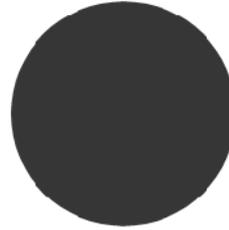
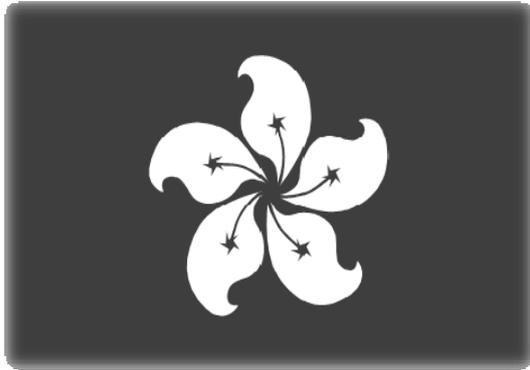
Joint Forum（ジョイント・フォーラム）とは、年間テーマにかんする勉強の中から、問題や論点を取り上げ、Exchange Program 中に、ディスカッションを中心とする意見交換をはじめとして、より深い勉強を行うセッションである。Joint Forum は受け入れ時、訪問時、それぞれで行うことになっている。

香港プロジェクト

Joint Forum 報告 テーマ『在日外国人の問題について』、『FDH と本土からの移民』

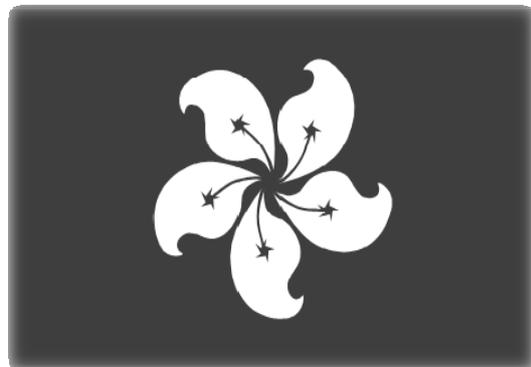
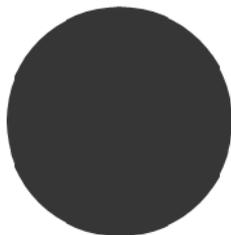
スイスプロジェクト

Joint Forum 報告 テーマ『スイスの移民改正法の是非』



香港プロジェクト

Exchange in Japan:07.7.3~7.12
Exchange in Hong Kong:08.2.18~2.28



GET2008 香港プロジェクト チーフ挨拶

青山 惇

私が初めて香港を知ったのは、中学生のときでした。沢木耕太郎の『深夜特急』を読み、旅への憧れが芽生えるとともに、まだ見ぬ香港という土地に対し、さまざまな想像を膨らませていたのを今でも覚えています。そんな私が香港に対して抱いていたイメージのひとつに「混沌」というものがあります。中国という国に属しながら、世界有数のマーケットを抱える資本主義の世界、一国二制度、超高層ビルの並ぶオフィスや住宅、美しい夜景などなど……。この一年間、香港についてさまざまな角度から調べるうちに、ますます香港に対し、興味を抱いていきました。

そんな香港での様々な体験は後述に譲りますが、私にとってこのプロジェクトはひとつのきっかけを与えてくれたものと思っています。今まで人の上に立つことのなかった私にとって、チーフとしての責任、小さいながらも組織を動かすことの難しさ、すべてが初めての体験でした。受け入れ前の準備からさまざまなトラブルに見舞われ、訪問が終わる最後までドタバタしていた、というのが正直なところですが、その中で自分の成長を感じることができました。ふがない私がチーフをつとめながらも、一年間のプロジェクトを無事終了させることができたのは、顧問の太田先生や香港城市大学の岡田先生、香港経済貿易代表部のギルフォードさん・児玉さん、GET2008 のアドバイザーである宮崎さん、IBJ メンバーと家族の方々、GET スイス PJ のメンバーのおかげだと考えております。そしてなにより GET 香港プロジェクトのメンバーには、常に協力してくれ、一所懸命割り当てられた仕事に取り組み、そんな中でも楽しく、なごやかな香港 PJ の雰囲気を作ってくれたことに感謝しています。私だけではなく香港 PJ の全員が、この GET の活動をとおして小さく一歩前進することができたならば、チーフとして、とてもうれしく思います。

GET2008 香港プロジェクト 香港側 チーフ挨拶

Feeling of GET:

I enjoyed activities of GET very much. Within those ten days in Japan and ten days in Hong Kong, I not only had sightseeing and companies visiting, but also had many chances to let us know each other. Due to different cultures, our living styles, habits and things we like may be different. Though GET program and communication with Japanese members, I know more about what those different are and how they feel. The end of GET program does not means it is the end of our communication, since we became friends. I hope our friendship can be keep forever!

Mandy

GET プログラムに寄せて

2008年5月

City University of Hong Kong

Okada Norimichi

現代社会ではメディア技術と交通機関の発達により情報と物と人間が国境を越えて移動する現象は日常のものとなっています。日本に限らず世界の各国・社会が相互依存化なしに単独で存在および機能することはもはや不可能になっています。いわゆる地球化(globalization)現象は今後も着実に進展すると予測されています。

しかし、極東に位置する日本は海に囲まれ昔から他民族との接触が少なく、単一民族、単一国家として存続してきました。それにより日本文化はアジアのほかの国には見られないほど文化を熟成させることができ、現在ではそれが魅力となって欧米・アジア諸外国から注目されるに至っています。その反面、他民族との交流が少なかったことにより、他民族を表面的にしか見ることができなくなってきたことも事実なのです。外国とのビジネスや、政治的交渉の場面でも日本人は相手の人が常に同じテーブルについてくれるものと最初から信じてことに当たる場合が多いと思います。もともと他民族同士が同じ価値観を持ってテーブルにつくこと自体稀有なものとするほうが妥当な考えかたではないでしょうか。そこで、必要なことは他民族の本質を知ることです。そしてそれを自国民に対してリフレクションして自国民を知ることです。

日本は戦後、経済成長ひとすじに進んできました。しかし、外国との取引が増えれるにつれて、相手国との摩擦は経済面だけでなく政治面でも増えるいっぽうです。日本がアジアでのリーダー的役割を今後も維持していくためには更に他国、他民族を本質から理解する必要があります。特に日本を取り巻く近隣諸国との関係は絶対に途絶えることはないでしょう。中でも中国・朝鮮・ロシアなどの国は政治体制が日本と異なるだけに、その民族が歴史的に培われた思想や理念は日本人と大きく異なっていることがあります。

GETプログラムの活動でホンコンを選んだ意味は大きいと思います。中国を研究するにはホンコンは格好の条件を備えているからです。今や、中国はアジアにおいても世界においても巨大な国家になろうとしています。しかしながら日本人はその巨大国家についての知識はまだまだ知らないことが多いのではないのでしょうか。歴史問題、食品問題、尖閣列島領土問題、どれもなかなか進展しない、解決の糸口さえ見つからない問題です。みなさんが一般国民の目から見てわかるように双方が同じテーブルについていないのです。

GETプログラム・ホンコンを一回だけの活動とせず、この交流をきっかけに、巨大国家中国を観察する一つの切り口として、できるだけ大勢の若い人に中国の本質を見抜いてほしいと思います。将来の日本のために・・・。

そして、ホンコンとの交流を今後も長く続けていただきたいと思います。

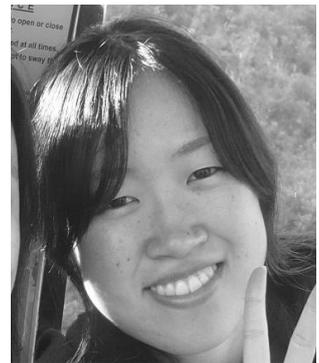
GET08香港PJ日本メンバー紹介

- 青山 惇 学部：法学部 学年：二年
役職：チーフ



- 常安 郁彌 学部：社会学部 学年：一年
役職：サブチーフ

- 向井 直子 学部：社会学部 学年：二年
役職：広報



- 山上 玲子 学部：社会学部 学年：一年
役職：広報

- 富田 美美子 学部：経済学部 学年：一年
役職：会計



- 大田 愛子 学部：法学部 学年：一年
役職：勉強会

GET08香港PJ香港メンバー紹介



- Lau Kin Chui, Mandy 香港城市大学
BBA International Business
役職：香港訪問チーフ
パートナー：向井直子



- Sheryl Lin 香港城市大学
BBA International Business
役職：日本訪問チーフ
パートナー：山上玲子



- Sze Hoi Ying Alexandra 香港城市大学
BBA International Business
役職：企画
パートナー：富田美美子



- Chow Siu Fung Jessie 香港城市大学
BBA International Business
役職：会計
パートナー：常安郁彌



- Wong Tsun Kiu 香港城市大学
BBA International Business
パートナー：青山惇



- Cheung Lo 香港城市大学
BBA International Business
パートナー：大田愛子

Exchange in Japan

07.7.3~7.12



6/24 **Welcome Party**

7/3 原宿

5 大学案内, 先生とのミーティング

6 新宿(多文化交流センター)・新大久保

7,8 群馬県大泉町訪問, 箱根旅行

9 **Joint Forum**

10 お台場(大江戸温泉物語)

12 ディズニーシー



7月3日(火曜日) 原宿 Day

担当者：常安 郁彌

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-----|--|
| 17:30~20:00 | 原宿駅 | 竹下口集合 竹下通り→BEAMS→LAFORÉT→表参道→CAT STREET→DIOR→OMOTESANDOU HILLS→RALPH LAUREN→裏原→CANDY STRIPPER→R→UNITED ARROWS |
| 20:00~21:30 | 裏原 | さくら亭（おこのみ焼き、もんじゃ焼） 解散 |

●レポート●

私の知り合いから聞いた香港人に関する数少ない情報によれば、「香港人は買い物が好き」だそうで、これをもとに、東京の中でも屈指のショッピングポイントである原宿を紹介することに決めた。かなりの時間を費やして、原宿について調べたが、少ない時間で、一日歩きまわるぐらいの原宿をどのように紹介すればいいのかと悩んだ。そこで、ただ有名なショップを回るのではなく、「unexpected」として称される東京独特の建物とそのデザインで面白いものを紹介しようと思った。原宿についてのおおまかなガイド（英語版）と、原宿を舞台とした若者ファッションの変遷を写真で紹介する小冊子、そして、当日まわる所を簡単に紹介したプリントを2枚ほど作った。テーマが決まってから、2回ほどかなりの時間、原宿を実際に歩き、友人に助言を求めた。

そして、当日、実際に観光を試してみたところ、香港メンバーはかなり日本語ができたので、英語を話す必要はなく、なるべくゆっくり大きな声の日本語で説明をした。一日目ということで緊張したが、とにかく原宿を楽しんでもらおうと思った。観光の最後は「さくら亭」というお好み焼き、もんじゃ焼食べ放題のお店に行った。香港メンバーも日本メンバーも楽しんでもらえたようなので良かった。

本当によく知っている街であっても、実際に紹介することになると難しいということが今回でよくわかった。よく知っているがゆえに難しいという点もたくさんあったが、私にとっての「原宿」を紹介しようと努めた。

7月5日(木曜日) Campus Tour/Meeting Day

担当者：青山 惇

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|---------|------------------|
| 17:30 | 国立駅南口 | 集合 |
| 17:45～18:45 | 一橋大学 | 大学案内 |
| 19:15 | 吉祥寺駅中央口 | 岡田先生・メンバーとの待ち合わせ |
| 19:30～21:30 | 串屋 | 岡田先生との食事会 |
| 21:30 | 吉祥寺駅中央口 | 解散 |

● レポート ●

今日は、国立駅に集合し、大学の構内を案内した。緑の多い一橋大学のキャンパスや兼松講堂や東本館などの趣きある建物は、ビルが立ち並ぶ林立する香港の大学の学生たちには新鮮に感じられたようだった。図書館では、実際に内部を見学することもできた。私は、別のサークルで留学生に対してのキャンパスツアーを行ったことがあり、その経験を活かすことができたのはよかった。しかし、英語でのガイドは初めてで、とても緊張するとともに、自らの英語力不足を痛感した。

その後、吉祥寺に移動して、香港城市大学で日本語を教えていらっしゃる岡田先生や、メンバーのサンドラと合流し、串揚げを食べながらのミーティングを行った。岡田先生から、香港の様々な事柄について興味深いお話があり、また今後の活動方針についても話し合うことができた。日本の学生たちは、それぞれ香港の学生たちと親睦を深めることができ、お互いとても仲良くなった様子であった。私個人は、週末に計画していた小旅行の日程等を調整していたため、あわただしくなってしまったが、全体的には楽しく、最後には記念写真を撮って、ミーティングを終えることができ、とても有意義な一日となったと思う。

7月6日(金曜日) 新宿区役所訪問 Day

担当者：青山 惇

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|----------------|------------------------|
| 15:30 | 新宿駅東口 | 集合 |
| 16:00～17:30 | 新宿多文化共生 プラザ | 新宿区役所文化国際課、土屋氏によるレクチャー |
| 17:45 | 新宿駅東口 | メンバーと待ち合わせ |
| 18:00～20:00 | 歌舞伎町・大久 保 | 新宿区において外国人の多く住む地域の散策 |
| 20:00～21:30 | 韓国料理店はる ばん | 食事会 |
| 21:30 | 新宿駅東口 | 解散 |

● レポート ●

この日は、新宿駅に集合したが、飛び入り参加した香港の学生が多く、総勢 20 名を超える大所帯となった。新宿区は、東京の中でも、居住している外国人の方の数が多く、人口の約 1 割に相当する 30,000 人が暮らしている地域である。そのような状況の中で、区としてどのような政策や支援体制をとっているのか、という点を中心にお話をうかがった。新宿区では、5 カ国語での相談に応じるコーナーの設置や、外国語教室やイベントを通じた交流を行っているそうで、その他にも、区内の実情や今後の展望について詳しくお話を聞かせていただくことができた。このレクチャーは、英語の資料をもとに、日本語でお話いただき、城市大学の学生たちにはとどろきに座る日本人学生が適宜説明を加えていくという形式であった。まだ日本語学習歴がそれほど長くない香港の学生にとって、このレクチャーを聞くのは、かなり大変な作業だったようで、疲労している様子であった。

このレクチャーの後は、人口の 40%を韓国人が占める大久保地区の散策に向かった。この地区は、ハングル文字で書かれた看板が数多くあり、まるで韓国にいるかのような錯覚を覚える。これには、香港人だけでなく、日本人学生も驚いていた。中でも、韓国の食料品が売られているスーパーが、多くの学生にとって興味深かったようだ。

今日は、日本の中でも観光ガイドに載っていないであろう場所に連れて行くことができた点ではよかったが、レクチャーの形式など課題も残る一日であった。

7月7日(土曜日) 大泉 Day

担当者：富田 芙美子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-----------|-----|
| 9:00～10:00 | | 移動 |
| 10:00～11:00 | スーパーマーケット | 買い物 |
| | 喫茶店 | |
| 11:00～12:00 | レストラン | |
| 12:00～13:00 | 公園 | 昼食 |
| 13:30～14:00 | | 遊び |

● レポート ●

この日はGET顧問を務めてくださっている太田先生からご紹介のあった群馬県にある大泉を訪問した。大泉は日系ブラジル人が多いことで知られているところで、実際に訪問してもスーパーやレストランの従業員が全てブラジル人で、少し変わった異国の趣を体験することができた。

始めに日系ブラジル人が利用する、日用品や現地の食材が売られているスーパーマーケットに向かった。次に、昼食までまだ時間があったので、ケーキ屋さんにむかいった。味は大味で、大きさも日本のケーキの1.5倍はあった。昼食を食べる予定になっていたレストランにはケーキ屋さんのご主人が車で送ってくださり、とても助かり、嬉しかった。レストランでは有名なブラジル料理の、シェラスコという肉料理を食べた。とても量が多く、女の子は2人で1つをシェアして食べた。他にも串刺しになっているお肉を皆でシェアして食べた。お肉の大きさは圧巻で、味もとてもおいしかった。

最後にレストランの近くにあった公園に行った。相撲の土俵がそこにはおいてあり、皆で相撲をとって遊んだ。思いがけなく日本文化に触れてもらうことができたので、よかった。

7月8日(日曜日) 箱根・芦ノ湖クルージング

担当者：山上 玲子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|--------|--------------|
| 7:00 | 芦ノ湯 | 起床 朝食 |
| 10:00 | 恩賜箱根公園 | 散策・富士山の眺望 |
| 11:30 | ホテル湯の花 | 昼食 |
| 13:30 | 芦ノ湖 | 芦ノ湖遊覧船クルージング |
| ～16:00 | 桃源台 | 出発 |
| | 新宿 | 到着・解散 |

●レポート●

朝 7 時ころに起床し、ホテルで朝食を摂った。食後、箱根町までホテルから出るバスで移動し、箱根町に到着した後は、恩賜公園の散策に向かった。

県立恩賜箱根公園は、観光地「箱根」の中心かつ離宮跡地だけあって、公園からの眺めは秀逸であった。晴れた日には湖や周りを囲む箱根外輪山、富士の峰が一望できる。ここでの主な目的は、香港のメンバーから要望が多かった富士山の眺望だったが、当日は生憎の曇天で、富士山を拝むことは残念ながら叶わなかった。しかし展望館では、それぞれ写真を撮るなど、芦ノ湖を見下ろす景色を楽しんでいたようだ。

公園を回り終え、ホテルで昼食を摂った後、箱根港へと戻り遊覧船のチケットを購入した。遊覧船の出港時刻まで、多少の空き時間があったため、ホテルへの道の途中に見かけたソフトクリーム屋で、各自好きなソフトクリームを味わった。

箱根港から桃源台への橋渡しとなる遊覧船は、17 世紀のヨーロッパに実際にあった船をモチーフとしたもので、甲板には海賊を模したユニークな装飾が施されるなど、面白い内装が目をつけた。このクルージングも、芦ノ湖から見える富士の景観を狙ったものだったが、この時点でも晴れ間が覗くことはなく、富士山を見ることはできなかった。

桃源台発新宿行きのバスで帰途に着いた。移動中のバスの中で、日本メンバーそれぞれが香港メンバーの皆へ向けてメッセージを書き、新宿駅で渡すと、皆一様に笑顔で受け取ってくれた。今回の受け入れでお別れとなる香港人メンバーへの感謝の言葉と共に、今回の二日間にわたる小旅行を締めくくった。

7月9日(月曜日) Joint Forum Day

担当者：向井 直子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|------|-------------|
| 16:30 | 国立駅 | 集合 |
| 17:00~19:00 | 一橋大学 | 太田先生の講義 |
| 19:30~20:45 | 一橋大学 | Joint Forum |
| 21:00 | 国立駅 | 解散 |

●レポート●

この日は受け入れ期間中の重要なイベントである **Joint Forum** を行った。

サンドラが来られるのが 18:30 ごろということであったので、**Joint Forum** の前にサンドラ以外の香港の学生と日本の学生は、GETの顧問である太田先生のお話をうかがうことにした。今年度のテーマである「日本に住んでいる移民・外国人」について英語で詳しく話してくださった。予定では1時間ほどであったが、学生からの質問もあってか、結局2時間にわたる講話となった。資料もたくさん用意してくださり、「様々なことが聞け、有意義だった」と香港の学生からも日本の学生からも好評であった。

その後予定より30分遅れで **Joint Forum** が開始された。当初の予定では資料読み(5分)→プレゼン(10分)→グループディスカッション(35分)→発表(10分)で行う予定であったが、時間が迫っていたのでグループディスカッションと発表の時間を少し削ることとなった。

詳しい進行は **Joint Forum** のページがあるので、そちらを参照されたい。

Joint Forum はすべて英語で行ったわけだが、幼稚園から英語教育を受けている香港人はかなり英語ができることもあって日本の学生の多くにとっては厳しいものであった。しかしその中で少しでも多く発言しようという意欲が見られ、よかったと思う。

7月10日(火曜日) 大江戸温泉物語

担当者：山上 玲子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-------------|----------------|
| 17:20 | 新宿 | 集合 |
| 18:10 | 大江戸温泉 物語 | 到着 夕食 温泉 |
| 21:00~22:00 | | 帰宅 |

●レポート●

大江戸温泉物語は、東京のベイエリアお台場にあり、関東近郊からの日帰り温泉として親しまれている。

新橋駅汐留口で合流し、ゆりかもめでお台場テレコムセンター駅へ移動する間は、香港プロジェクトも終盤に差し掛かっているためか、それぞれにメールアドレスを交換するなど、車内では和気藹々とした談笑が聞こえた。

大江戸温泉物語に到着すると、その外観はまさしく江戸時代の豪華な屋敷といった感じで、入口で撮った写真はいい記念写真になった。

入館後、まずは19種類の浴衣の中から好きなものを選び、更衣室に入って着替えた。予てから香港の女性陣が浴衣を着たいと度々言っていたが、やっとその要望を叶えることができた。浴衣に袖を通すのも初めてだった香港メンバーの着付けをするなど、日本文化を介してのコミュニケーションはとても楽しいものだった。

更衣室を抜けた先の内装も江戸時代の街並みを模したもので趣があり、射的やかき氷など、祭りを彷彿とさせる出店に日本人メンバーの方がはしゃいでいたようだ。平日の、しかも夕方6時以降だったこともあってか、人気施設であるにもかかわらず空いていたのもありがたかった。

夕食を先にとった後、いよいよメインの温泉へと向かった。

大浴場は広く、ところどころに畳が敷かれていたり、露天風呂が五右衛門風呂風だったり、趣向を凝らしたお風呂は見た目にも楽しめるものだった。香港メンバーにも、日本らしい風情を感じてもらえたと思う。

7月12日(木曜日) 東京ディズニーシーDay

担当者：向井 直子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-----------|--------|
| 17:10 | 新宿駅 | 集合 |
| 18:15 | 舞浜駅 | サンドラ合流 |
| 18:30~21:30 | 東京ディズニーシー | 観光 |
| 22:00 | 舞浜駅 | 解散 |

●レポート●

この日は最終日であったので、打ち上げの意味もこめて東京ディズニーシーに行った。

まずタワー・オブ・テラー、センター・オブ・ジ・アース、インディ・ジョーンズ・アドベンチャーとアトラクションに乗り、20:05から“ブラヴィッシーモ！”(水上ショー)を鑑賞した。香港人メンバーはジェットコースターが好きだったようで、楽しんでもらった。“ブラヴィッシーモ！”はかなりの迫力であり、香港のディズニーランドでは見られないショーを見せてあげることができたのではないかと思う。その後は20:30から始まる花火を見る予定であったが、台風が近づいている影響で中止になってしまった。残念であったが、悪い天気のおかげでアトラクションが空いているという利点もあった。

ショーのあとは21:30まで自由行動となった。それぞれアトラクションに乗ったりお土産を買ったりして楽しんだ。

別れの時はチーフから一言があり、日本人メンバーから香港人メンバーにプレゼント(一橋大学のクラッチバッグ)が渡されるなどして過ごした。そして別れを惜しみながら、それぞれ帰路についた。

Exchange in Hong Kong

08.2.18~2.28

- 2/19 大学見学、授業参加
- 20 海洋公園、ビクトリアピーク
- 21 企業訪問
- 22 日本領事館訪問、ディズニーランド
- 24 中環(Central)、大嶼山(ランタオ島)
- 25 澳門(マカオ)
- 26 **Joint Forum**
- 27 黄大仙



2月18日(月曜日) Departure

担当者：青山 惇

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|-------------|-------------------|
| 14:00 | 成田空港第1ターミナル | 集合 |
| 18:00 | 成田空港第1ターミナル | ノースウエスト航空 001 便搭乗 |
| 22:20 | 香港国際空港 | 空港着、各パートナー宅へ |

● レポート ●

午後に成田空港に到着した私たちは、インターネットで航空券を予約した特典として、ラウンジで待ち時間を過ごすことができた。当然のごとく、メンバー全員が初めての体験であり、出発前から興奮気味の様子であった。

チェックインをすませ、いざ搭乗し、座席に座るところまではよかったのだが、管制塔のトラブルで、飛行機がなかなか出発しないというハプニングに見舞われた。1時間ほどして、ようやく回復したようで、離陸した。

結局、香港国際空港には、1時間半ほど遅れて0時ごろ到着することになり、岡田先生や香港城市大学の学生たちをお待たせしてしまった。しかし、半年を経ての再会にメンバー一同興奮し、抱き合う女性メンバーもいた。

その後、それぞれバスや電車などで家路に着き、訪問一日目は終了となった。

2月19日(火曜日) Campus Tour/Seminar Day

担当者：青山 惇

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|------------|-----------------|
| 9:20 | 香港城市大学 | 図書館前に集合 |
| 9:30~12:30 | 〃 | キャンパスツアー |
| 13:30~15:30 | 〃 | 岡田先生の日本語クラスに参加 |
| 17:30~19:00 | 〃 | 岡田先生によるセミナー |
| 19:00~21:00 | 大学近くの中華料理店 | 岡田先生・香港の学生との食事会 |
| 21:00 | | 解散 |

● レポート ●

二日目は、大学にパートナーとともに登校した。まず日本で言う Suica に似ているオクトパスカードを渡された。これは、前もって入金しておけば、電車やバスの機械に、カードをかざすだけで乗ることができるものである。

大学に到着すると、キャンパスツアーが行われた。さまざまな建物を見せてもらうことができたが、まずショッピングセンターの中に大学の入り口があることに驚くとともに、話に聞いていた通り大学の敷地は狭く、学生がひしめき合っているという印象を受けた。

午後には、岡田先生の受け持っていたらっしゃる日本語のクラスに参加し、ディスカッションなどを行った。城市大学の学生とともに、楽しく日本の文化等々について話すことができた。さらに、岡田先生には、そのクラスの後に、セミナーを開いていただき、私たちの年間テーマである「移民」と香港についてお話しいただき、メンバー一同非常に興味深く拝聴した。

最後に、大学近くの中華料理店で岡田先生を交えて会食を行い、一日のスケジュールが終了した。

2月20日(水曜日) Ocean Park/Peak Day

担当者：常安 郁彌

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|------------|------------|
| 09:30 | 金鐘駅 | 集合、バス乗車 |
| 10:00~18:00 | Ocean Park | |
| 19:00 | 金鐘駅 | 夕食 |
| 20:30~22:30 | Peak | 蠟人形博物館、展望台 |
| 22:30 | | 解散 |

●レポート●

20日は香港に来て初めての観光日であった。天気も快晴であり、思いっきり楽しんだと記憶している。Ocean parkはその名のとおり、海に隣接していて、遊園地と水族館、動物園が合体したようなテーマパークである。香港の土地事情ももちろんあるだろうが、このような一度で三度楽しめるテーマパークはなかなか日本にはないと思う。香港は日本より統合や共有といった考えが進んでいて、逆に日本は分離することで秩序立てているのではないかと思った。食に関してだが、そのような話を香港経済貿易代表部のギルフォード氏としたことと、前日のセミナーもあったせいかな、そんなことを考えて、特に「共有」という考えについては香港を離れる日まで折にふれて考えをめぐらした。

Ocean park 自体はとても楽しく、様々なアトラクションや水族館を楽しみ、最後は一度に5匹のパンダを見るという貴重な体験をした。Ocean park を後にして、一行は Peak へ向かった。Peak へはかなりの傾斜をトラムに乗って行くのであるが、夜景を見る前に蠟人形館へ立ち寄った。夜景は本当にきれいで、写真やカメラにはそのすべてを収めることはできなかった。ビルが高いので立体感があり、それほど大きくないスペースに煌びやかなビルが集合していた。息をのむ、というような光景ではなく、静かに、ゆったりと光を放っていたのが印象的であった。後で、領事館に言ったときに岡田先生に伺った話であるが、Peak は、絶頂といっても実は山の絶頂からは一段下がったところにあり、事実、領事館から Peak を見るとそのようであった。しかしその「夜景」こそまさに世界中に流布された香港のイメージであり、そこに立ち会うことは今まで自己の中で作り上げられてきた香港のイメージと実体験が重なる瞬間であった。香港がそのような夜景だけでないことは全日程を通して思い知った。

2月21日(木曜日) 企業訪問&ソーホーDay

担当者：向井 直子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|------|----------------------------------|
| 10:00 | 旺角 | 飲茶 |
| 14:00~15:00 | 元朗 | Royal House Employment Agency 訪問 |
| 16:00~17:00 | | 香港明愛訪問 |
| 17:30~18:30 | | 買い物 |
| 19:30~21:00 | 旺角 | 元宵(中国のバレンタイン)見学 |
| 21:30~22:30 | ソーホー | 夕食 |
| 22:30~23:30 | 〃 | 散策 |
| 23:30~0:30 | 〃 | バー |

●レポート●

この日は企業訪問2つがメインとなった。

1つめは FDH(Foreign Domestic Helper)の斡旋会社である Royal House Employment Agency を訪問した。事前に調べていったので内容はかなり理解しやすかった。雇用主から要望があったときどのようにして人を選ぶのか、どれくらいの人数が1か月に雇われるのか、どのようなトラブルが多く、どの程度の人が契約途中でやめるのかなど私たちが知らなかったことも多く聞いた。

2つめは Caritas Community Centre(香港明愛)という福祉の企業を訪問した。主に中国本土からやってくる移民について、パワーポイントを使いながら1時間ほど話してくださった。1番驚いたのは出産費用が中国本土から来た人と香港 ID カードを持っている人で大きく差があることだ。ID カードを持っている人なら入院費用だけで出産可能だが、それ以外の人では予約ありだと3万9000ドル・予約なしだと4万8000ドル払わなければならないそうだ。中国人の平均給料が1000ドル(月あたり)であるからどれだけ膨大な額か想像がつく。そうしてまで香港で産むのには、生まれてくる子どもが香港の ID カードをもらえるようにという理由があるそうだ。またこれは後日マンディから聞いた話なのだが、中国本土から香港に多くの人が出産しに来るのは中国の一人っ子政策が関わっているらしい。2人目以降の子どもを産むと罰金が必要になり、その罰金が香港の出産費用より高いというのだ。このシステムは香港政府だけの問題ではなく中国政府と一丸になって考えねばならない問題と言えるだろう。

そして夜は元宵のイベントで灯籠のようなオブジェを見て回ったあと、外国人が多く集うソーホーで夜ごはんを食べ、おしゃれなバーでお酒をたしなんだ。SOHOでは従業員も客も香港人でも英語を使って話すこともあり、香港が英国領であったことが思い出された。

2月22日(金曜日) 大使館&Disney land Day

担当：富田 芙美子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-------------|-----------------|
| 8:00~12:00 | 日本大使館 | 日本大使館員菅野さんによる講話 |
| 12:00~13:00 | | 移動 |
| 13:00~21:00 | Disney land | 遊び |
| 21:00~ | レストラン | 食事 |

●レポート●

この日の午前中は、日本大使館を訪問した。領事部の菅野典子氏がパワーポイントを用い、日本の出入国管理について香港との比較を中心にして話して下さった。日本大使館にお邪魔できるという貴重な経験ができたのも、岡田先生のお力添えがあったからだと感じ、とてもありがたかった。また、日本領事館では広東語の通訳の方まで用意していただき、とても感動した。岡田先生の「ここが香港で唯一、日本国旗が掲げられている場所です。」との言葉は大変印象深く残っている。

午後には香港ディズニーランドに行った。到着したころは小雨がぱらついていたのですが、途中からは晴れ間がのぞき始めた。荷物がとても多かったので、皆でロッカーをシェアして使った。香港のディズニーランドは日本のディズニーランドよりも一回り小さく歩きやすかった。また、アトラクションは、ジェットコースターなどの乗り物と、ショーが融合し様な感じだった。日本でいうと、ディズニーシーとディズニーランドが融合したような感じだろうか。

夜はしゃぶしゃぶに行った。日本のしゃぶしゃぶと違い全ての具材を最初から鍋に入れて煮ていたのので、日本で言えばしゃぶしゃぶというよりは鍋に近いなあと感じた。

2月23日(土曜日) Family Day

担当者：山上 玲子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|----------------|----------|
| 9:00 | シェリル宅 | 起床・朝食 |
| 11:00 | 旺角 | 昼食 |
| 15:00 | 尖沙咀 | 大田と合流 |
| 14:30 | スタンレーマー ケット | 買い物 |
| 20:00 | シェリル友人宅 | 夕食 (BBQ) |

●レポート●

まだまだ土産を買い足りなかった私と太田は、この日、シェリルの案内でスタンレーマーケットに買い物に向かった。美しい海や自然に囲まれたスタンレーには、多くの欧米人が暮らす高級住宅街が広がっており、静かで緑の多いエリアであった。週末は、海岸周辺のエリアに欧米人や観光客が多数訪れ、多くの人でにぎわっているという。中国雑貨や衣料品などたくさんのものであふれたスタンレーマーケットのある海岸通りには洒落たレストランやパブが並び、中心街とは異なった欧風の雰囲気を楽しむことができる。

バスで移動する際には、くねくねと曲がりくねった起伏の激しい道が続いた。そこにある家々は山の斜面に生えるように建てられていて、地震の多い日本ではなかなか見られない光景だ。バスを降り、「マレーハウス」と呼ばれる、香港に残る西洋建築のなかでもっとも古いものの一つとされている歴史的な建物を眺めた。坂を少し下っていくと、そこから先には、スタンレーマーケットが広がっている。どこのお店もたくさんの品物が所狭しと並び、外まで様々な商品があふれ出ている。中国風の雑貨やアクセサリー、中国絵画などがズラリと並び、衣料品も安さに驚いてしまうものが多かった。それ以上に驚いたのが、店員達が「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」は勿論のこと、「かわいい」などの日本語を多く使っていたことだ。それだけ日本人観光客が多いということだろうか。ともあれ、スタンレーマーケットは買い物を満喫するにはぴったりの場所だった。

その後、バーベキューをすることになり、バスでシェリルの友人宅まで移動した。香港式のバーベキューは、蜂蜜をつけた変わったものだったが、非常においしく、また友人らとの交流も楽しいものであった。

2月23日(土曜日) Family Day

担当者：常安 郁彌

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|-------|-------------------|
| 9:00~ | 深圳、球王 | バスターミナル |
| 11:00~ | | 到着、ボーリング |
| 13:00~ | | 昼食 |
| 15:00~ | | マッサージ |
| 17:00~ | 深圳 | 香港バスターミナルへ |
| 19:00~ | 旺角 | ホストファミリーと夕食、散策、解散 |

●レポート●

23日は family day ということで、フリーとなり、各自パートナーやホストファミリーと過ごすことになった。Mandy のお兄さんが中国本土の深圳を案内してくれるというので、青山、向井、私の三人はパートナーとともに深圳へ向かった。深圳については治安が悪く、スリが多いので気をつけるようにと聞かされていた。バスに乗って深圳へ行くと、香港から出国手続き、続いて中国への入国手続きをするなど、厳重な体制で、同じ中国とは決して言えないものであった。深圳に到着したとき、香港とは違った空気を感じた。タクシー乗り場で順番待ちをしていると、次々に抜かされていって、これぞ中国というような感じであった。まず、ボーリング場に向かった。機会や施設は古びていたが、ボーリング場はいたって普通だった。その後は、レストランに向かった。北京ダックや、鶏肉のフライで、頭もそのままできてきたり、カエルの生殖器とマンゴーのデザートがでたりと、貴重な食体験もした。円卓では中国人は何でも食べる、という話題の話に花が咲いた。そして、マッサージ店に向かった。深圳の中ではこぎれいな建物であった。ゆったりと座れる席に腰掛け、飲み物と果物が無料で用意された。席には一人一台テレビが付いており、チャンネルも充実していた。香港もそうだが、テレビがいたるところにあるものだと思った。残念ながら、時間の関係でマッサージは途中退室したが、料金はチップ込みで 180 元というのだから驚きである。私は Jessie の家族と夕食を食べにモンコックへ向かった。モンコックで、バイキングに招いていただき、ホストファミリーと楽しい時を過ごした。不思議に感じたのが、西洋風高級店にいくと香港人同士なのに英語で注文をとり、あまり広東語を話さないところだ。

2月24日(日曜日) FDH&大嶼山 Day

担当者：大田 愛子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|----------|-----------|
| 10:00 | 中環駅 | 集合 |
| 10:00~11:00 | 公園 | FDH に話を聞く |
| 11:15~11:45 | MTR(地下鉄) | 中環駅→東涌駅 |
| 12:30 | 大嶼山 | 昼食 |
| 13:30~17:15 | 大嶼山 | 大仏観光 |
| 17:15~18:00 | ロープウェー | 大嶼山→東涌 |
| 18:00~21:00 | | 夕食&買い物 |

●レポート●

この日はFDHが集まる中環の公園に行って、話を聞いた。彼らにとって休日である日曜日だったのでMTRや街にもたくさんのFDHがいた。こんなにたくさんのFDHが働いているのかと驚いた。中環駅を行きかう人の9割はFDHだった。その公園はFDHが集まる場所で、写真を撮る露店が出ていたり、昼食を持ち寄って談笑したり、FDHの交流の拠点だった。FDHに質問する際は、3、4人のグループに分かれて質問した。楽しそうなFDHたちを実際に見ることで、私たちが今まで持っていたFDHに対するイメージと違うポジティブなイメージを持つことができた。

そのあと香港の仏教信仰の中心地である大嶼山に行った。観光客でにぎわうレストランで精進料理を食べた。とてもおいしく、日本人の口にもよく合っていた。そのあと、世界最大の野外大仏とよばれる大仏を見に行った。大仏は268段の石段の上にある世界最大というだけあって非常に大きかった。また、そこから見る景色もきれいだっただ。

その後、昂平360というアジア最長のロープウェーに三十分ほどのって、大嶼山のMTRの駅まで戻った。その日は風が強く、ゴンドラは揺れて、とても寒かった。しかし、景色はとてもきれいだっただ。

2月25日(月曜日) Macau Day

担当者：青山 惇

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|---------|---|
| 8:45 | 尖沙咀 | 集合 |
| 10:00 | フェリー乗り場 | フェリー乗船 |
| 11:00 | マカオ | 到着 |
| | リスボアホテル | 見学 |
| 13:00~14:00 | リスボアホテル | 昼食 (ポルトガル料理) 散策 (セナド広場、聖ドミニコ教会、聖ポール天主堂跡など) |
| | | カジノ |
| 18:00 | フェリー乗り場 | フェリー乗船 |
| 19:00 | | フェリー到着、帰宅 |

● レポート ●

今日は朝からフェリーに乗り、マカオに向かった。1時間ほどで到着し、まずバスに乗り、リスボアホテルに向かった。途中、マカオの高級ホテルの数々を見て、メンバーは感心していた。

リスボアホテルは、大きなカジノやブランド品店が並ぶ高級ホテルで、内装も美しかった。そこの一角にあるポルトガル料理店で昼食をとった後、観光に出かけた。セナド広場などを散策し、ホテル以外のマカオに住む人々の暮らしを垣間見ることができたのはよかった。みやげ物を買う通りにさしかかると、それぞれ思い思いに干し肉や菓子などを購入していた。その後、世界遺産にも数えられる聖ポール天主堂跡を見学した。さらに、カジノにも行き、マカオ特有の「大小」と呼ばれる遊びを皆で楽しんだ。昼の間は、賭け金も少なく、地元の人々の気軽な遊び場となっているようであった。

個人的には、マカオはカジノで遊ぶ観光客と地元の住民との二極からなる土地であるように思えた。一方でホテルが次々と建設されていたが、そのようなこととは無縁の暮らしを送っている人々もいるという点が印象的だった。

2月26日(火曜日) Joint Forum Day

担当者：向井 直子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|--------|-------------|
| 10:00 | 旺角 | 集合・移動 |
| 11:00 | 尖沙咀 | ハーバーシティ散策 |
| 12:30~13:30 | 〃 | 昼食 |
| 13:30~16:00 | 〃 | 自由行動 |
| 17:30~18:30 | 香港城市大学 | Joint Forum |
| 19:00~20:30 | | 夕食 |

●レポート●

この日は香港散策をした。10時に旺角で待ち合わせたと、チムサーチョイへバスで向かった。ハーバー沿いの、香港の有名人たちの銅像や手形があるアベニュー・オブ・スターズを歩いた。天気もよく気持ちよく歩くことができた。

その後昼食を食べに小肥羊という食べ放題のお店に向かった。数日ほど洋食が続いていたため久々の飲茶であった。いよいよ翌日で実質最終日ということで、それぞれ思う存分飲茶を楽しんでいた。

昼食後は青山・常安はスイスプロジェクト男子メンバーにお土産を買いに、富田・大田は足裏マッサージとネイルに、山上・向井はショッピングにと自由行動を楽しんだ。香港にいる間日本の学生だけで行動することはめったになかったので、新鮮な気持ちでショッピングを楽しむことができた。

香港城市大学に移動し他の香港の学生と合流した後、いよいよ Joint Forum がスタートした。

まず今までの勉強会や企業訪問、FDH へのインタビューで知ったことを元に Discussion を行った。最初は香港の学生ばかり発言していたが、意見を求められると日本の学生も慣れない英語を使いながら積極的に発言していた。

ちょうど Discussion を終えたあたりに、岡田先生と彼の友人である名古屋学院大学の教授が私たちの様子を見学しに来られた。そうして次は Presentation に入った。香港の学生は各々、日本の学生はみんなで1つの Presentation を行った。それにしても香港の学生はプレゼンがとてもうまい。慣れていることが感じ取れた。

1時間ほどの Joint Forum を終え、香港城市大学隣接のショッピングモールにあるイタリアンレストランで夕食をとり、解散した。

2月27日(水曜日)お寺&博物館 Day

担当者: 富田 芙美子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|-------|----------------|
| 9:00~12:00 | お寺 | お寺廻り |
| 12:00~13:00 | レストラン | 昼食 (四川料理) |
| 13:00~14:00 | 移動 | |
| 14:00~18:00 | 博物館 | 展示の観賞 |
| 18:00~20:00 | 尖沙咀 | ステージ・オブ・ライトの観賞 |
| 20:00~21:00 | 尖沙咀 | 食事 (カレー) |

●レポート●

この日の午前中は、黄大仙祠、志蓮淨苑という名のお寺を見て廻った。日本のお寺と比べてとても人工的だった。この日に関わらず、人工的なものを香港では多く見かけたので、こういった人工的なものが香港の文化なんだな、と感じることができた。次に、尖沙咀にある3つの博物館に行った。最初は歴史博物館、次に科学博物館、最後に宇宙博物館、という順序で廻った。なぜこの日に博物館めぐりをしたかという、香港では毎週水曜日は博物館が無料だからだ。歴史博物館は英語と広東語しか説明書きがなかったので少し読むのが大変ではあったが、日本の侵略の様子などの展示を見ることができたのは、感じるどころが多く、よかった。また、古い資料を展示するというよりは模型など新しく作ったものを展示してある、といった感じで、日本の歴史博物館とは少し趣が異なっていた。科学博物館はとても面白かった。ここでは体験型展示がほとんどで、みんなそれぞれ、楽しんでいるようだった。

最後に、ステージ・オブ・ライトを見に行った。香港の夜景と光の演出が見事に調和し、とてもきれいで、感動した。また、この日は日本滞在中一緒にすごしたIBJの、コアメンバー以外の香港メンバーもきてくれ、久しぶりに再会することができたのでとても楽しかった。

2月28日(木曜日) 最終 Day

担当者：富田 芙美子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------------|----|--------------|
| 各自別 8:45～ | 空港 | 家を出発 フライト |

●レポート●

最終日だった。教で香港を発つのかと思うと、長かったようで、あっという間だったな、ととても感慨深かった。飛行機が 8:45 分空港発だった関係で、朝とても早く集合だった。それにもかかわらず、5人のパートナー全員が空港に見送りに着てくれ、申し訳なく感じるとともにとても嬉しかった。私は皆より少し早めに空港に到着したので、パートナーと二人で空港内のレストランで軽い朝食をとった。これが香港で食べる最後のご飯かと思い、一口一口味わって食べた。

その後は皆で集まり、早めにターミナルに入った。別れのときはとても悲しく、また香港に来たい、と強く感じた。また会おうね、と何度も言い合った。ルルという愛子のパートナーが、日本に春から青山学院大学に短期留学する予定があるとの事だったので、再開の約束もした。とても別れ難かった。

ターミナルに入ってから少し余裕があったので、皆それぞれトイレに行ったり、お土産を買ったりと、空いた時間を有効に過ごしていたようだった。また、このときにスイスプロジェクトの皆へのお土産を優の良品で買った。

企業・機関訪問報告①しんじゅく多文化共生プラザ

しんじゅく多文化共生プラザ

Shinjuku Multicultural Plaza

文責：常安 郁彌

1. 概要

東京の中でも、全人口の10%を外国人が占める新宿区にある、多文化共生のまちづくり、国際交流推進、文化理解を深める施設である、しんじゅく多文化共生プラザを訪問した。香港プロジェクト中の訪問であり、香港の学生10名が参加した。東京における外国人労働者や移住者などの実態について知るとともに、しんじゅく多文化共生プラザのような施設の機能、必要性について学んだ。

2. 訪問目的

- ① 新宿区における外国人労働者や移住者の実態を知る。
- ② しんじゅく多文化共生プラザの活動を知る。
- ③ 新宿で起きている問題から日本における移民の問題を検討する。

3. 訪問報告

① 担当者からの新宿区における外国人についてのレクチャー

まず驚いたのが、新宿区には実に107カ国の人々が暮らしているということだ。その現状を踏まえて、外国人が直面する困難について知った。言語の問題や、日本人とのお互いの無理解から生じる問題、労働環境などがあげられた。そこでしんじゅく多文化共生プラザは各主要言語のスタッフを集めて窓口で対応したり、お互いの文化を知るイベントを開催したり、異文化交流の場を提供し地域住民と外国人を結ぶ役割を担っているということを知った。

② 質疑応答

実際にどのような問題について外国人から問い合わせや相談が多いのか、異文化交流の場として具体的にどのような活動をしているのかなどの質問が上がった。

4. レポート

日本語のレクチャーであったので、日本人が適宜香港の学生に説明を加えていった。全員真剣にレクチャーを受けており、新宿という大都市のイメージの裏に、様々な問題を抱えていることに気付くことができた。また、日本では外国人の問題は無意識のうちに一定のバイアスがかかりながら語られており、現状としてこれほど多くの外国人が住んでいるという事実が目が向けられていないことがわかった。また、しんじゅく多文化共生プラザのような、地域・住民レベルでの相互理解の促進の大切さを実感した。

企業・機関訪問報告②香港経済貿易代表部

文責：常安 郁彌

- | |
|--------|
| 1、概要 |
| 2、活動実績 |
| 3、資料 |

1、概要

香港の出先機関の一つである、香港経済貿易代表部は毎年GETの活動を支えてくださっています。特に、次席代表の Gilford Law 氏と渉外・広報担当の児玉益江氏には私たちの活動へのアドバイス・サポートを惜しみなくいただいています。本年の香港プロジェクトの活動においても、お忙しい中、お時間をいただき、三回もの交流の場を設けていただきました。

2、活動実績

7月：Gilford 氏との昼食会。前年の活動の報告と、本年の活動メンバーの引き継ぎ。勉強テーマ「移民」について、いくつかのアドバイスをいただき、経済貿易代表部の資料をいくつか貸していただきました。

9月：イベントや香港に関する事でアドバイスをいただきました。

11月：勉強テーマ「移民」、香港における家事労働者（FDH）についてディスカッションをさせていただきました。長時間、私たちの疑問に真剣に答えていただき、本当に貴重なご意見を聞かせていただけました。私たち自身の問題意識も一層深化し、香港訪問へ向けてさらに勉強に励むきっかけを得ることができました。

3、資料

○11月のディスカッションの内容の一部です。

- Q. 香港の家事労働者についてお聞きしたいのですが、どれくらいの収入があると家政婦を雇えますか？
- A. 4人家族で月収が HK \$ 15000、日本円で 200000 円ぐらいの人たちは国営のアパートに入ることができます。家政婦は、住み込み、フルタイムで最低賃金が月 HK \$ 3480 です。日本では家政婦を雇うというのは相当裕福な家庭だけなので非日常的ですが、香港では家政婦を雇うのはごく普通です。
- Q. 香港では休暇の規則はありますが、一日の労働時間についての規制があいまいになっているため、家事、育児にかかる時間が相対的に少なくなり、そこに家政婦の需要が生まれるのではないですか？なぜ、一日の労働時間、日本でいえば 8 時間制、が守られないのですか？
- A. 香港でも、望めば定時に帰ることはできます。ただ、香港の人はだれも帰りません。香港のキーワードとして「フレキシブル」「アグレッシブ」があります。市場もフレキシブルです。ゆえに労働力もフレキシブルになります。定時に帰って、10年20

年、同じ椅子に座る人はごく少数で、大多数は会社に残ってさらに仕事をこなします。香港では年功序列ではなく、能力や成果を買われて昇進します。その点、香港人はアグレッシブに働きます。ただし、あくまで残業するかどうかは「個人の選択の自由」です。このことは、シンガポールと同じく、アジアエコノミーで女性の社会的地位が高いことも支えています。女性も9時や10時まで当たり前のよう働いています。

Q. 子供と過ごす時間がなくなりませんか？

A. 教育問題はよく議論されます。ファミリータイムがなくなってしまうことは、さまざまな問題を起こします。子供の人間性など。香港は教育熱心なところであり、その質や量などはよく議論されます。ただ、個々のファミリーがどう対処するかが問われているのではないのでしょうか。たとえば、家政婦がいれば、家に帰ってご飯を作ったり、お皿を洗ったり、掃除したりする必要がないから、家にいる時間はすべて子供と過ごせます。そうすると相対的に子供にかけられる時間は多いのではないのでしょうか。たとえば、父が毎月HK\$ 8000を稼ぎ、母がHK\$ 6000を稼ぐとします。子供のためや、その他の理由で母が仕事を辞めると、一家の収入はHK\$ 8000となります。ですが、家政婦を雇えば毎月HK\$ 3480を払っても、一家の収入はHK\$ 10520です。母が仕事を辞めない方が経済的ではないのでしょうか。

Q. 10年前の返還の時の話を伺いたいのですが、個人としてどのような心境でした？

A. センセーショナルでした。一方では、香港というところがイギリスという一大帝国の一部として、イギリス的な最高のシステムを発達させてきたところであり、それが続くことの喜びを感じました。アジアでもトップのシステムです。他方では、香港が中国というマザーランドに返還されるという喜びを感じました。「中国に金の卵」ともてはやされたものです。イギリス人が高位職から退いて、全システムが香港の人によって執り行われるようになって、香港の人の地位も上がり、香港は実際の「国」のようになりました。社会的混乱ありませんでした。共産主義になってしまうという不安はごく一部の人しか持っていませんでした。香港人は資本主義を知っているからです。

Q. 一国二制度が果てる時、40年後をどのように見えていますか？

A. **Only God knows.** 50年後は **China will look like H.K.** ということをやっていた人もいました。今、全世界でいわゆる「格差」問題にどの国も直面しています。アメリカ、日本、香港、そして中国。同じ問題です。香港が共産化することもないと思います。中国にとっても、香港は大事な拠点です。

話は変わりますが、香港のクリスマスセールはすごいです。あとはイルミネーションが素晴らしいです。男性陣は夜景を、女性陣は買い物をとよく言います。

今回、みなさんのテーマが移民と聞いて、実によいテーマを選んだなと思いました。香港を理解するのに、助けになると思います。

企業・機関訪問報告③御舎僱傭公司(Royal House Company)

(FDH斡旋業者)

文責：常安 郁彌

1. 概要

香港の家事労働者（FDH）の斡旋企業訪問。都市部から離れた場所にあり、雇い主とFDHを仲介している。香港プロジェクトのテーマであるFDHの現状について、生の声を聞かせていただいた。

2. 訪問目的

- ③ FDHが実際に本国から香港に渡り、働き口を得るまでの過程を知る。
- ④ 斡旋業者はどのような仕事を担うかを知る。
- ③ 現場ではどのような問題があるかを知る。

3. 訪問報告

① 窓口担当者から斡旋業者の業務内容の説明

斡旋業者についてはFDHの勤め先の問題に対して消極的で、斡旋するのに多額の金額を要求し、雇い主側に立っているといったような話ばかり聞いていたが、実際は、料金システムも明確に記されていて、雇い主との問題の仲介、FDHの研修や、コミュニティの場の提供など、活動は多岐にわたっているようだった。

⑤ 質疑応答

FDHの労働条件や雇用主との不和など、問題意識をメンバー全員が持っていたので、質問もそのことに集中した。しかし、実際はFDHに関して細かな決まり事が多く、労働問題にまで発展することはそう多くないようだ。言語、生活習慣、意思の疎通の問題といった、生活に密着したレベルでの問題が多数を占めるらしい。

4. レポート

斡旋業者に対してネガティブなイメージを持っていたが、訪問を通してそのようなイメージが揺らいだ。日本で得る情報ではFDHの労働条件や環境の劣悪さを示すものが多かったが、香港において、FDHというシステムは概してうまく機能しているのではないかと考えるようになった。

企業・機関訪問報告④香港明愛



文責：常安 郁彌

1. 概要

社会福祉施設である香港明愛を訪問した。「移民」をめぐり、FDHから少し離れて、中国本土からの女性移民についてのお話を Tsuen Wan さんに伺った。

2. 訪問目的

- ① 中国本土からの女性が直面している現状について認識する。
- ② FDHではない、香港の人々にとっての「移民」を考える。

3. 訪問報告

- ① 施設において、Tsuen Wan さんから香港明愛の仕事と、中国本土からの女性についてのレクチャー

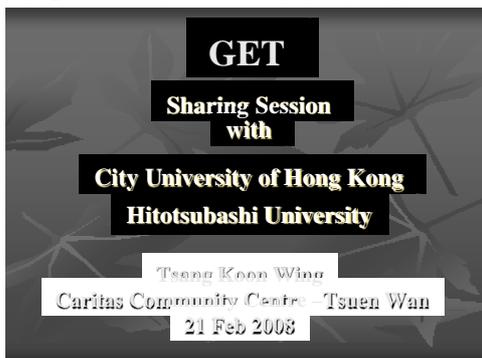
中国本土からの女性、特に出産と移民との関係をレクチャーしてくださいました。中国の一人っ子政策や香港政府の規制、少子化、香港IDカードなどの関係から本土からの女性は苦しんでいるとの現状を知った。子供が香港で生まれれば香港IDカードを手に入れられることや、香港の男性と中国本土の女性が結婚した時、IDカードによって両者は区別されることなど制度上のことから、中国本土の女性が香港の生活に慣れないことや差別を受けることなど、生活レベルのことまで広く問題を取り上げていただいた。

- ② 質疑応答

中国本土の女性は香港においてどのような存在なのかについて、現状の制度に対してどのような意見を持つか、またどのような解決策が考えられるかなどについて伺った。香港明愛としても力を入れているテーマであり、熱が伝わってきた。

4. レポート

中国本土と香港がいかに違うか、中国本土女性に対する香港の人々の意識など、しばしば「中国」として見てしまう認識の怖さに気付くことができた。



Joint Forum(Exchange in Japan)報告

文責：向井 直子

1.はじめに

Joint Forum とは GET 活動の大きな柱である受け入れ・訪問時に行う最も重要なアカデミックなイベントである。形式などはプロジェクトごと・年ごとに違うが、共通しているのは海外の学生と意見をかわすという点である。この Forum に向けて私たちは日々勉強会を行った。

2.概要

=テーマ= 『日本に住んでいる移民・外国人』

=当日の流れ=

- ・資料読み(5分)
- ・プレゼン(10分)
- ・グループディスカッション(35分)
- ・発表(10分)

3.資料及びプレゼン

資料は各自が勉強会で配布した資料を英語に直し、手直しをした上で各メンバーに配られた。

またプレゼンも同様に各自の担当したテーマごとに英語で行い、グループディスカッションの基礎となる情報を提供した。

以下が担当したテーマとパワーポイントの一例である。

- ・ History of the immigration in Japan : 向井
- ・ System about immigration in Japan : 山上
- ・ Japanese-Brazilian : 富田
- ・ Korean living in Japan : 常安
- ・ Problems to live with foreign people : 青山

The Special Permission of Residence (在留特別許可)

- ① Given the permission of permanent residence.
- ② Given the Japanese nationality before
- ③ Forced to reside Japan under the rule of someone.(human traffic 人身売買)
- ④ Other circumstances.

The Problem of Special Permission of Residence

A criterion is unclear.

Whether the permission is given or not depends on the Minister of Justice's discretion.

Recent Situation of Immigration in Japan



- Accepting on Philippine Nurses in Japan.
An agreement on free trade in November 2004 made it possible for Philippine nurse and care persons to work in Japan.

Background→Labor shortage in Japan

Correspondence of Japan

- New organization
 - offer the information of the job in Japan
 - make some manuals to acquire a national qualification



こうした発表のあとに、グループディスカッションへつなげるために各テーマの問題点が発表された。

- History of the immigration in Japan :
 - Treatment to Chinese and Korean
 - Not tolerant
- System about immigration in Japan :
 - Unclear System
 - Blue-collar people
- Japanese-Brazilian :
 - Difficult to enter schools
 - The number of the crime
- Korean living in Japan :
 - National education
 - Opportunity to vote
- Problems to live with foreign people :
 - Education to students
 - Consciousness to live in the community

4. グループディスカッション及び発表

グループディスカッションでは5人ほどのグループを3つつくった。ブレインストーミング(10分)→中間まとめ(5分)→解決策策定(10分)→発表用まとめ(10分)という流れで行った。日本人メンバーは事前に一度予行練習を行ったこともあり、各グループで説明するなどしてうまく進行することができた。香港人はかなり英語ができることもあって、帰国子女でない日本人メンバーには英語でのディスカッションは厳しいものがあったが、それぞれ発言しようとする努力が見られた。流れをはっきり決めていたこともあり、各グループ解決策策定までたどり着けたこともよかった点である。

発表はあらかじめ作っておいたパワーポイントに打ち込んで行う予定であったが、時間の都合で口頭での発表となってしまった。それでも各グループ工夫をこらして発表し、自分のグループ以外のグループの意見もしっかりと共有できたと思う。

勉強会 香港について

文責：山上 玲子

香港についての基礎的な知識を深め、共有する目的で、香港について様々な面から各々が調査し、発表し合いました。発表は問題形式を取り、それぞれがテーマに沿って問題を作成し、答え合わせをする形で勉強会を行いました。交流するにあたって、相手国の事を知るのは必要不可欠なので、皆かなり詳しく調べて来ていました。

担当したテーマは以下の通りです。

- ①教育(向井) ②地理・観光・文化(大田) ③歴史(山上)
④制度・法律(青山) ⑤外交(富田) ⑥香港における日本企業(常安) ※問題例↓

香港の歴史

問1 香港地方が初めて中国の支配下に置かれたのは、 王朝の時代である。

- ① 漢 ② 隋 ③ 秦

問2 唐代には が南海貿易の交易港として繁栄した。_____

問3 1)明代には、香港にも水軍が設置された。○か×か。

2)その頃の明を苦しめていた南と北からの侵略を

- 1) _____ 2) ① 北露南賊 ② 北虜南倭 ③ 北風南風

問4 次のa～cに入る国名を書け。

清代に入ってa) が開港すると、1699年から b) 東インド会社などが来航するようになり、1711年には (a) に商館が開設されている。(b) は次第に中国茶を大量に輸入するようになり、貿易代金決済のために (c) からアヘンを中国に輸出し始めた。アヘンの輸入を規制しようとする清朝政府とイギリスの争いが起こった。これがアヘン戦争の発端である。

a) _____ b) _____ c) _____

問5 香港がイギリスに永久割譲されたのは、アヘン戦争後の 条約である。

- ① 南京 ② 北京 ③ ロンドン

問6 九龍半島がイギリスに割譲されたのは、第二次アヘン戦争後の 条約である。

- ① 南京 ② 北京 ③ ロンドン

問7 イギリスが新九龍および新界地域の租借に成功したとき、この地域の租借期限は 1997年6月30日 午後12時を以って切れることになっていた。○か×か。_____

問8 イギリスの支配が始まった当時、中国と新界の国境線は開放されており、中国人は自由に行き来できた。○か×か。_____

問9 次のa～に適語を補充しなさい。

1941年12月8日にa) が勃発すると、日本軍は香港に侵攻し、わずか18日間で香港攻略を完了した。イギリス領香港を占領した日本は当初b) を行った。また、日本軍はc) を発行してインフレを起こし、香港経済を疲弊させた。そのことは今なお国際問題として残っている。

a) _____ b) _____ c) _____

問10 日本軍は香港住民に 皇民化政策 を実施し、日本語 を強制した。○か×か。 _____

問11 第二次世界大戦 後、国際連合 の1) となった 中国国民党 政府はイギリスに香港返還を求めたが、間もなく2) が始まったため不調に終わった。

1) _____ 2) ①国境紛争 ②国共内戦 ③

国共合作

問12 1949年には 中華人民共和国 が成立し、共産主義 を嫌う多数の中国人が本土から香港に逃れ香港の経済発展に寄与をした。○か×か。 _____

問13 1967年に中国で1) が起こると、香港でもその影響下に暴動が発生したが、穏健派の2) が長期的な利益から香港を回収しない方針を明らかにし、香港暴動は沈静化した。1) ①文化大革命 ②文学革命 ③四川暴動

2) ①鄧小平 ②周恩来 ③李舜臣

問14 香港政庁は、朝鮮戦争時に大量に押し寄せた難民に対処する課程で、住宅供給や市街地の拡大に伴う開発プロジェクトを行うようになる。ただし、政府規制を極力押さえ、低い税率を維持するなど過剰な経済への介入を避けた。これが 主義である。

①自由放任 ②修正放任 ③積極的不介入

問15 1980年代から1990年代にかけて香港は シンガポール、中華民国、韓国 とともに経済発展を遂げた「アジア四小龍」あるいは、 と呼ばれるようになった。

問16 1984年12月19日、中英共同声明が発表され、イギリスは1997年7月1日に香港の主権を中華人民共和国に返還し、香港は中華人民共和国の一 特別行政区 となることが明らかにされた。○か×か。 _____

問17 中華人民共和国政府は鄧小平が提示した「1 」政策をもとに2 を将来50年(2047年まで)にわたって香港で実施しないことを約束した。

1) ①一国兩制 ②一国共生 ③一橋寮生 2) _____

問18 問17の発表後、香港では イギリス連邦 内の カナダ や オーストラリア への移民ブームが起こった。○か×か。 _____

問19 返還前の政治的動揺にもかかわらず、経済的には香港の不動産市場や株式市場は空前の活況を呈した。○か×か。 _____

問 20 返還後、中華人民共和国が香港の外交権と軍事権を掌握し、イギリス軍に代わって人民解放軍部隊が香港に進駐した。しかし、基本的な社会経済制度は変わらず、法体系もイギリス領時代の [] がそのまま用いられている。 _____

問 21 香港返還直後から、香港の失業率は上昇した。○か×か。 _____

問 22 2003年には隣接の 広東省が発端となった [] が香港でも急速に拡大し、2000人が感染、299人が死亡する事態となり、観光客は激減、香港経済は大打撃を受けた。 _____

香港と日本企業 (Excel)

○日本企業の商標マークが無断で香港で使用され、問題となったことがある？【○、×】

○香港企業で「優の良品」という企業がある？【○、×】

○香港に進出した日本企業の数は？【①200 ②400 ③731 ④6000】

○香港では、日本企業による商工会議がもたれているが、その正式名称は？

【①日本商工会議②全日本商工会議③香港日本人商工会議所 】

○香港へは古くから日本企業の進出があったが、その後進出ピークとなったのは何年か？

【①1992 ②1993 ③1994 ④1995】

○香港の日本企業の業種一位は？【①製造 ②マーケティング ③輸出入業務 ④卸売】

○香港の日本企業の親会社の業種一位は？

【①原材料、部品コンポーネントの製造、販売 ②電気製品 ③IT、テレコミュニケーション製品】

○香港に進出する理由？

【①香港との近接性 ②低コスト ③香港に関係する日本人顧客へのサービス向上化
④豊かな香港市場】

○香港にある日本企業の商工会議のポストについていない企業は？

【①三井物産 ②日本郵船 ③みずほ銀行 ④東レ ⑤キャノン ⑥NEC ⑦住友商事】

○日本は香港にとって何番目の貿易相手国？

①一位 ②二位 ③三位 ④四位

○逆に日本にとって香港は？

①四位 ②五位 ③六位 ④七位

香港に進出した日本企業は建設、証券、航空、IT、小売など多彩な方面で活躍中です！一つ一つの企業は追えませんが、かなりのビジネスが香港で展開されています。低コスト、法規制の緩さ、活気溢れる市場…おそらく、大企業といわれる企業は香港に支社を必ずと言っていいほどもっています。各自、興味ある企業が香港においてどのような展開を繰り返しているか調べて見るのも一興ですね。

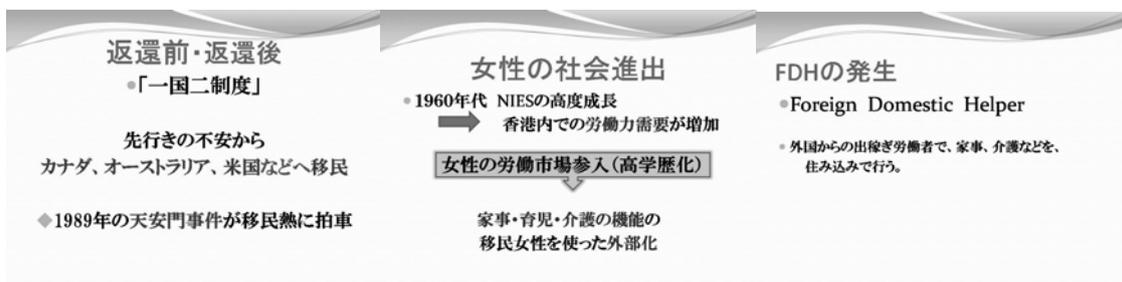
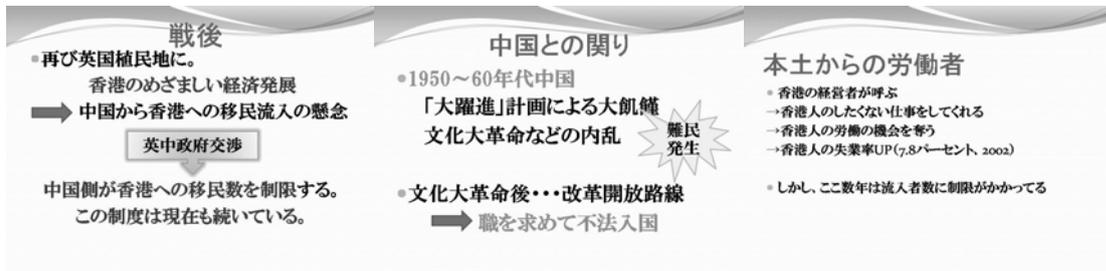
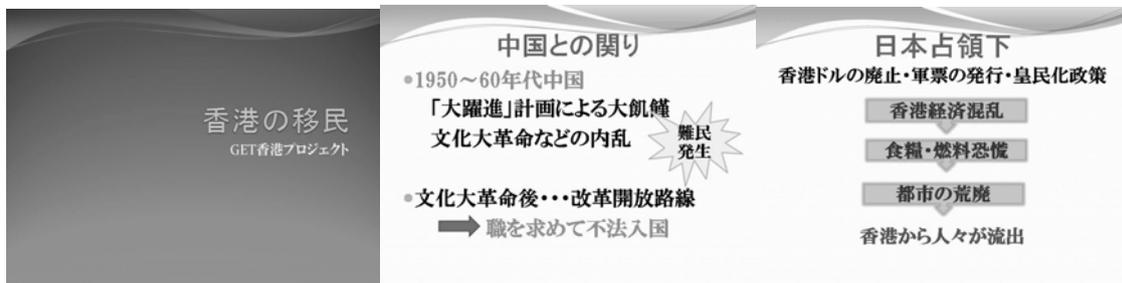
香港の移民に関する勉強会

文責：大田 愛子

11月に行った、香港の移民に関する勉強会では、それぞれが香港の移民に関する各テーマごとに発表を行いました。ここでは、それをまとめたものを発表します。この勉強会によって特に香港の移民の中でも、FDH(外国人家事労働者)について、学んでいく必要を感じ、訪問中の活動にも大きく影響しました。

各人の担当は

- ・統計からみる香港移民(向井) ・ホームヘルパー (常安) ・他国と比べて(青山)(富田)
- ・移民の労働環境、法律(大田) ・移民の歴史(山上)



現在

● 新規に雇われたメイドの
最低月給5%値下げ
↓
旧制度下のメイドの首切り続出

制度の概要

- 家事労働者の在留手続きには、雇用主の審査が必要。十分な収入がないと入居。
- FDHは住み込みかつフルタイム労働
- 賃金は毎年発表される。最低賃金を下回らないなら、いくらでもよい。
- 家事労働に従事するため、在留が認められ、契約が破棄されれば本国に戻らざるをえない。
- 家事労働以外には就労できない(別のビザ)
- 雇用主以外には使用されない。
- 契約している建物以外では働かない。

斡旋業者の存在

- 最低賃金以下
- 食事、休日を与えない
- 虐待
- 更新の際の法外な手数料
- パスポートの没収
- 本国の金貸し業者と共謀して法外な高金利の取り立て

現状

- 最低賃金取り締まれない
→ 斡旋業者の存在
領事館の黙認
- フィリピン人高学歴者
- 人種による賃金差(インドネシア人の冷遇)

現状

● フィリピン人 ● インドネシア人 ● タイ人 ● その他

現状

| | 労働日数 (月あたり) | 労働時間 (日あたり) | 労働時間 (月あたり) | 平均賃金 (月あたり) | 平均賃金 (日本円) | 平均時給 (日本円) |
|--------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|
| フィリピン | 24.9 | 13.4 | 334 | 3497 | 52455 | 157 |
| インドネシア | 28.8 | 13.4 | 359 | 2723 | 40845 | 114 |
| タイ | 24.9 | 13.4 | 334 | 3553 | 53295 | 160 |
| 計 | 25.7 | 13.4 | 344 | 3166 | 47490 | 138 |

↑ 休みも少ない... ↑ 実はおかしな数字

なぜかという...
法で定められている最低賃金は
3670香港ドルだから

最近の傾向 ～インドネシア人の増加～

最近の傾向 ～インドネシア人の増加～

- インドネシア政府の政策
→ 送り出す国側の理由
- より低い賃金とより少ない休日で就労する
(高学力と教育水準の差から)
→ 受け入れ国側の理由

現状

- 最低賃金取り締まれない
→ 斡旋業者の存在
領事館の黙認
- 高学歴なフィリピン人FDH
- 人種による賃金差(インドネシア人の冷遇)
- 労働環境
→ 休みが少なく、逃げられない、労働者の立場が弱い

Q&A なぜ国内のヘルパーではだめ?

- 試みが失敗。独自の需要。
- 税制度上、国内ヘルパーは優遇され、パートタイム勤務も可能。
- 海外のヘルパーはフルタイム！フレキシブルに働いてくれる。夜勤。逃げられない。

Q&A なぜ違法な事態が改善されないのか?

- 斡旋業者と雇用主との間にこうした条件が慣行となっている
- 雇用確認を行う領事館が黙認

問題点

- 現状の理解・認識
- 社会保障・労働環境の充実
- 不正な雇用者の取り締まりの強化
- 外国人労働者の地位向上

↓

香港行政や、送り出し国の行政が中心となって改善するべき。香港市民、外国人労働者の意識の改革!!

英語勉強会

文責：常安 郁彌

- | |
|--------|
| 1、趣旨 |
| 2、活動報告 |
| 3、資料 |

1、 趣旨

G E Tの活動を通して、英語のスキルが求められる場面は多い。もちろん、プロジェクトが成功するためには英語以外のコミュニケーション力も必要である。だが、ディスカッションやプレゼンの発表などで英語は必須である。そこで、香港プロジェクトは英語、特にディスカッションやプレゼンでの実用的な英語表現を学ぶべく勉強会を開いた。担当は青山惇、常安郁彌。

2、 活動報告

- 第一回 ディスカッションについて
第二回～第五回 英語表現、英単語

まず第一回目は効果的なディスカッションやプレゼンの仕方を日本語で勉強した。その際、falcons library(debate)(<http://falcons.misudo.com/>)や、Keio Debate Squad(<http://www.maeda-lab.net/KDS/>)などのサイトから多くを学んだ。その後の数回は英語表現の穴埋め式問題を行い、ディスカッション、プレゼンに必要な単語や、発言の際の便利な言い回しなどを勉強した。合わせて、私たちの勉強テーマである「移民」、香港の家事労働者（F D H）などの問題を論じる際に必要な英単語を勉強した。英語のスキルアップというのはG E Tの活動を通して得られるものの一つであろう。

3、 資料

○英語表現テスト

1、プレゼンテーションにおける表現—論旨と仕方についての表現

<プレゼンテーションの論旨を最初に述べる表現>

・ Today I would like to (t) (to you) about some of our work in the field of ABC.

※ talk about の代わりに discuss を使うこともできる。

・ Today I will be (s) mostly about ABC, but I will also cover DEF later on.

・ Today I would like to (p) [present] a brief overview [summary] of the major findings and conceptual issues in this area. After the overview, I want to describe some of our most recent data.

※ overview 概観、summary は概要で、同じような意味。

<プレゼンテーションの仕方についての説明表現>

- I would like to (g) this talk in three parts. The first part deals with ABC. The second part concerns DEF, and the last part relates to GHI.

※ 英語では「強調」の目的で意図して用いるのは別として、同じ言葉を不注意に繰り返して用いるのはよくないとされている。本例の deal with, concern, relate to はこれを避けた用法。

- I will first discuss ABC. I will then (t) on DEF, and finally describe GHI.
- I would like to (d) my talk into three parts. 1)....2)...., and 3)....
- I would like to give my presentation (b) on the materials which I have handed out to you.

※ 配布資料に基づいて説明する場合。

2, プレゼンテーションにおける表現—論点の提起表現

<真っ先の論点の提起表現>

- I think it would be (b) to start off by making some general comments on ABC
- I would like to (s) with a discussion of A[some general statements concerning A].
- To (b) with, we have to consider ABC.

<順序を付けて論点を列挙する表現>

- I would like to make three (p) with respect to ABC. The first point relates to A... The second point concerns B... The third point is that...
- I want to make some comments on ABCD. First,... Second,... The third comment relates to C... The last comment concerns D...

※ 列挙するのに First, Second, Third, Fourth, Last [Finally] としても良い。

<前後関係のある論点の提起表現>

- The first (p) I'd like to make about ABC is that...
- I'd like to (s) by making one statement about ABC, and that is that...
- The (n) point I'd like to bring up [talk about] has to do with ABC.
- We'll [Let's] now (m) [go] on to (the next problem of) ABC.
- Let's [Let me/ I'd like to/ We'll] turn now to (the next problem of) ABC.

※ turn の代わりに、shift to, switch (over) to なども用いられる。

- (T) to the other question, I'd like to talk about ABC.
- This [That] brings [leads] me to my second point.

※ 事前に他の事を述べ「そういう訳で次に～」と言う場合。

- I'd like [I want] to (g) back [return] to (the question of) ABC.
- This (b) [leads] us [me] back to the question of ABC.
- Now, let's [I'd like to] (t) about [look at/ consider/ deal with/ go over, etc.]ABC.
- The topic I'd like to (g) over [through] with you at this point is ABC.

3. プレゼンテーションにおける表現—論旨の詳述・略・速述表現

<論点の詳述表現>

・ I would like to go [enter] into some (d) [depth] on this question.

※ detail [depth] には some, more, greater 等を付けることができる。

・ Let us (c) some of these factors in more [greater] detail.

・ We will discuss this matter in a little more detail as we go on.

※ 後でだんだん詳しく述べる例。

・ Since this problem is very important to us, I would like to spend some time describing it in greater detail.

<論点の略・速述表現>

・ Without (g)into details, I just want to point out that....

・ I would like to (r) [d / d /c on, etc.] ABC (very/ rather)succinctly.

※ succinctly は「簡潔に」。他に、briefly, rapidly, quickly なども用いられる。

・ Let me touch on ABC (very/ rather) (b). (簡単に触れたい)

・ I didn't have (t) to go into detail(s) on this subject.

・ I'm sorry that time made it (n) to skip over many details of ABC.

4. プレゼンテーションの結論・要約表現

・ I would like to (c) with a few general remarks on ABC.

・ Let me (c) by making an observation concerning ABC.

・ I would like to (c *) (my speech/ presentation) by saying that...

・ Let me (c *) by reminding you that....

・ Now, I would like to (s) (u) the result of this survey.

・ To (s) (my talk), ABC has been used for many, many years to lower fuel consumption.

*なお、この問題を作成するにあつ

て <http://www.aohan.com/outerdocuments2/conferenceenglish.pdf>の論文を参考にした。

(各URLは2008年5月22日21時現在)

Joint Forum in Hong Kong

文責：青山 惇

1. 概要

香港城市大学において、2月26日にジョイントフォーラムを行った。まず、はじめに、IBJメンバーからプレゼンテーションがあり、質疑応答とディスカッションを行った。今年の年間テーマは「移民」であるため、香港における移民、外国人労働者の実態、特にフィリピン、インドネシアなどから働きに来ている家事労働者などについてのプレゼンテーションであった。次に私たちGETが発表を行った。私たちは、香港における移民・外国人労働者の中でも、前述の家事労働者についてプレゼンテーションをし、問題提起を行った。香港で行った企業訪問やFDHの方々にインタビューしたことなどを活かした発表ができたように思う。その後質疑応答とディスカッションを行い、記念撮影の後、終了した。なお、このジョイントフォーラムには、名古屋学院大学から教授の方がお見えになり、見学なさっていた。

2. プレゼンテーションの内容

以下にIBJ、GETそれぞれのプレゼンテーションのスライドである。

i .IBJ

1 GET @ Hong Kong
Topic: Immigration

2 Agenda

- Discussion
- Immigration situation in HK - Kiu
- Reasons to come to HK - Sheryl
- Comment problems immigrant face – Jessie
- Method to be HK citizen – Mandy
- Employment situation of domestic helper – Lo
- Problems of the mainland women give birth to baby in HK - Sandra

3 Discussion

- Do you feel the HK government should maintain the system of controlling the mainland women come to HK to give birth?

4 Discussion

- Do you think system of domestic helper in HK should be used in JP? Why?

5 Immigration situation in HK

- Domestic helper
 - Thai: 16 thousand
 - Philippines: 115 thousand
 - Indonesia: 111 thousand
- The mainland Chinese: 86 thousand
- Other foreigners
 - UK: 25 thousand

6 Reasons to come to HK

- For domestic helper
 - \$, work
- For the mainland Chinese
 - Give birth to baby
 - Study / work
 - Family reunion

7 Reasons to come to HK

- Other
 - Visit
 - Employment
 - Investment
 - Training
 - Development
 - study

8 Comment problems immigrant face

- Language barrier (Cantonese & English)
- Discrimination
- Limit of opportunity
- Social network
- Economic
- Community resources / identification

9 Method to be HK citizen

- Capital Investment Entrant Scheme
 - Allowed to make his choice of investments amongst permissible assets
 - Invest over 650 million
 - Exclude the mainland Chinese

- ### Method to be HK citizen
- Admission Scheme for Mainland Talents and Professional
 - Implemented with effect from 15 July 2003
 - Objective: meet local manpower needs and enhance HK's competitiveness in the globalize market
 - Must possess skills and knowledge not readily available or in shortage locally
 - E.g. business, arts, culture and sports sectors

- ### Method to be HK citizen
- Quality Migrant Admission Scheme
 - Is quota-based and seeks to attract highly skilled or talented persons
 - Required to fulfill a set of prerequisites and quota allocation
 - May bring their spouse and unmarried dependent children under the age of 18 to HK

- ### Employment situation of domestic helper
- Minimum salary: \$3480
 - 2-year contract
 - Round-trip air ticket
 - Holiday
 - A day per week
 - statutory holiday
 - Annual leave after working 3 year
 - According to employment ordinance
 - Same as HK people

- ### Problems of the mainland women give birth to baby in HK
- For those women
 - High charge of hospital (→ loan)
 - Separate of family (mother stay in China)
 - Discrimination (if they marry HK's men)

- ### Problems of the mainland women give birth to baby in HK
- For HK
 - Difficult to plan (E.g. financial, education)
 - Not enough facilities to HK citizen

ii .GET

3. 感想

受け入れ後に、力を入れて調べてきたこともあり、前回のジョイントフォーラムに比べ、GETメンバーの発言も多く、充実したものとなったと感じた。しかし、それでもやはり語学力の不足は感じたというのが正直なところである。準備してきた内容についてはしゃべることができるが、予期せぬ質問などがあつた際には、なかなかうまく答えられなかったように思われる。

今後の課題としては、一年のプロジェクトを通してのメンバーの語学力向上とディスカッションのトレーニングが挙げられる。

GETの活動を終えて

青山 惇

私にとって香港での10日間は、まさに驚きの連続だった。予想以上に狭く密集した住宅、日本ではまず食べられないような珍しい食べ物の数々、高級ホテルが立ち並ぶ一方で市場に行けば庶民的な暮らしが残っているという混沌とした状況など、さまざまな香港での体験を思い出すことができる。

この一年間のプロジェクトは本当にさまざまな出来事に遭遇した。プロジェクトの始動から受け入れ、合宿、訪問まで、思いもよらないことの連続であった。

そのような中でも、私よりも印象的だったのは英語力の差である。私は、受験をくぐり抜けてきたとはいえ、スピーキングスキルは、ほぼないと言える状況でした。そんな状況であったので、受け入れ時の香港の学生との英語のスキルの差には衝撃を受け、これが私の英語学習に対するモチベーションにもつながったものと思います。さらに言葉については、どんな旅行にも言えることですが、現地の言葉に関する知識をある程度もっておくべきだと強く感じた。どこであれ、地元の人々とコミュニケーションがとれるということは、その国に対する興味をより深めるものであろう。

最後に私たちの活動にご尽力くださった皆様に、今一度感謝の念を伝えるとともに、今回パートナーだったKiuやIBJメンバーに再開できることを楽しみにしている。また、今後は、アドバイザーとして少しでもGETの魅力について後輩に伝えていくことができればと考えている。

ふりかえれば、一年間

常安 郁彌

高校時代に、アメリカの高校生との交流プログラムに参加して以来、国際交流の面白さや難しさにひかれるようになり、大学に入ってこのプログラムに参加してみようと思った。GETの一年間の活動を通して感じた事をいくつかあげたい。まずは、本当に充実した時間を過ごせたということである。同年代の学生と2週間ずつ一緒に活動するなどということはもう先にはないのではないだろうか。実に様々なことについてお互い気づき、刺激しあい、得るものは多かったと思う。次に、一国を知ること、または一つの問題を深めるといことがいかに難しく、やりがいがあるかということである。私たちは一年間「移民」というテーマを軸に香港を様々な角度でとらえてきた。そこで、移民の問題から別の問題へと波及することもあれば、香港特有の価値観にぶつかり、倫理や道徳といった世界共通の問題が出てくることもあった。自らを、自国を振り返らなければならない場面が幾度となくあった。しかし、「移民」という切り口から一つの「香港」を垣間見ることができたことは確かである。社会科学的方法が、地域は違えども有効であったことも実感できた。もちろん、私たちの勉強会がすべてではなかった。実際に、香港に訪問することで新たな問題点を発見したり、私たちのテーマを深化させたりもできた。なにより、香港でリアルタイムの学生と意見が交換できるということが私たちにとっては大きかった。また、他国の人々の知恵や価値観を知るといことがいかに有意義であるかを知った。実際、香港での生活を通して、香港の人々の価値観の一端を知ることができた。大事なのは意識的に理解しようとする事だろう。相手の価値観を知るとはどのレベルでも有意味である、つまり、日常生活のレベル、経済のレベル、政治のレベルといったことである。相手を知るとは第一歩である。それとは反対に相手への無理解や反射的な否定は様々な問題を引き起こす。さらに踏み込んで、無関心、というものも危険である。香港という地について、GETに参加しなければ一年間も勉強することはなかったといっている。幸運にも、実際は一年間勉強したわけであるが、香港には様々な問題が起こっていて、日本と関係のある問題も少なくない。ましてや、これからアジアという地域が注目度を増していく中で、その経済的中心である香港について「夜景」以外何も思い浮かばないのは残念である。できるだけアンテナを張って、様々なことに意識的に関心を向けることの大切さを学んだ。最後に挙げたいのは、ある問題意識を持っていれば、“当たり前”から違和感を察知することができるということだ。意識的に取り組むか否か、である。

GETの活動を通して、もちろん、メンバーの協力、気配りの大切さには思い知らされた。さらには、自分の役割をグループの中でどのように位置づけるのかということの難しさも知った。自分をどのように軌道修正することができるのか、またはできないのかということも考えさせられた。GETで経験したことを、忘れないようにしたい。最後に、支えてくださった方々、全メンバーに心から感謝を述べたい。

GETの活動を終えて

向井 直子

GETの活動を終えて1番強く思うこと、それはGETに入ると決めて本当によかったということである。

旅行好きな親のお陰で海外旅行には何度か行ったことがあったが、GETのように現地の人たちに案内してもらうのは今回が初めてだった。この経験が想像以上に充実したもので、私に一般の海外旅行では得られない海外体験のすばらしさを教えてくれた。それは現地のことをよく知っている香港人と有名な観光地をまわられたことだけでなく、企業訪問などGETの活動でしかできなかったようなことができたこと、同じ世代の外国の学生とじかに交流できたことが大きな要因であるように思う。

香港の学生は実に英語がよくでき、自国のことについてもよく知っている。広東語・北京語・英語・日本語と4言語を使いこなす。プレゼン能力にも長けている。移動途中“この建物は～だよ”と説明できるほどの知識をもっている。日本の社会情勢にも詳しい。そんな彼らには実に様々な場面で刺激をうけた。自分は日本のことについてもよく知らず、あれは何？と聞かれてもすぐに答えられなかったし、英語でディスカッションした時も発言はたどたどしいものだった。自分の能力の低さ、知識のなさに愕然としたのを覚えている。

しかしこういったことはGETの活動を経験しなければ感じられなかったことである。“無知の知”をまさしく感じた瞬間でもあった。

GETの特徴である“ゼロからのスタート”は正直大変な面も多かった。反省点が多く残ることも否めない。けれども、そういった面も全部含めて、GETで得たものは非常に大きいと思う。1年前GETに入ると決めた自分に感謝すると同時に、同じように感じてくれる後輩があとに続くことを願ってやまない。

一年間の GET 活動を通して

富田 芙美子

私が GET に入ったのは、大学に入ったら海外に行こう、と入学前から思っていたからです。それまで海外旅行をしたことがなかったので、不安に思うこともあったのですが、みんながいろいろと助けてくれたので、大丈夫でした。

GET に入って最初にすることは、所属プロジェクトを選ぶことでした。私は最初ドイツプロジェクトを希望していたのですが、それが途中で頓挫したため香港プロジェクトがスイスプロジェクトを選ばなければならなくなりました。09からはドイツプロジェクトが始まるということらしいのですが、初年度はいろいろと大変なこともあるとは思いますが頑張っしてほしいです。当時スイスプロジェクトは帰国子女の人がほとんどだったので、ちょっと弱気になり香港プロジェクトを選びました。香港プロジェクトのメンバーはみんな優しく、迷惑をかけてもカバーしてくれて、とても大好きなみんなでした。

受け入れでは東京観光をいろいろできて、日本人メンバーもとても楽しめました。受け入れとテスト期間がかぶって準備にあたふたしたことも今ではいい思い出です。受け入れで一番印象に残っているのは大江戸温泉です。香港メンバーも浴衣を着ることができてとてもうれしかったと言ってくれました。

訪問では、行きの飛行機の中からさっそくみんなとおしゃべりをたくさんして、すごく楽しかったです。夜遅くにもかかわらず香港メンバーが空港に迎えに来てくれていて、うれしかったです。私のパートナーのサンドラはとてもスポーティーで英語が上手なとてもかわいい女の子でした。自分の意見をはっきり言えるところとか、夢を持ってそれに向かって頑張っているところなど、見習いたいところをたくさん持っていて、いい刺激になりました。彼女は両親と弟の4人家族でしたが、家族仲がとてもよかったのもうらやましかったです。香港で一番印象に残っているのは、きれいな夜景とおいしいご飯です。中華料理がとってもおいしくて毎回食べきれないくらい食べていました。夜景も、高いところから眺める夜景だけでなく、普通の商店街の看板もとてもカラフルできれいでした。毎日朝から夜までたっぷり遊べましたが、いざ帰るときにはとてもなごり惜しくかったです。絶対にまた遊びに行きたいです。

最後に、GET に入ってよかったと思うことは活動を通して得ることができた貴重な体験やたくさんの刺激もそうですが、08のみんなと友達になれたことです。最初は火曜日金曜日の活動でしか顔を合わせることもなかったのですが、だんだん仲良くなって、アフターにみんなでご飯を食べたり、授業を一緒に受れたり、合宿に行ったりといろんな経験ができました。GET08の活動はこれで終わりですが、これからもみんなとは仲良くしていきたいです。一年間ありがとうございました。

GET08 の活動を終えて

山上 玲子

GET の活動を通じた国際交流は、私にとっても大きな、そして大切なものを与えてくれました。私は海外に行くのは今回が初めてでしたが、初めての海外での経験が、香港でのホームステイで本当によかったと思っています。

香港、と言う歴史的にデリケートな地域の、しかも同年代の人とこんなに密接にかかわり合うことができるのは、やはり GET という活動があつてこそだと思ひ、生活習慣や食習慣、それらすべての文化の違いや、人々の考え方の違いと触れ合うことで、自分たちの文化を見直すことができたと言うのは、とてもいい経験でした。

また、香港の歴史博物館の見学に行った折には、日本軍の占領当時の資料や映像が展示されていて、現在の日本に求められている責任を、過去の日本の行為として切り離してはいけなと強く思いました。岡田先生に、一年に四回も日本領事館に対するデモが行われていると聞いたときは、とてもショックでした。デモが行われているという事実そのものよりも、その事実を日本人である自分が知らなかったということがショックでした。私たち今の学生は、本当に、より多くのことを知らなければならなと強く感じました。

しかし同時に、このような過去を持った国同士が一部で文化を共有し、私たちのように深い部分で交流できると言うのは、素晴らしいことだとも感じました。私たちを受け入れてくださったパートナーの家族の皆さんには本当に感謝しています。

今年のテーマ、移民についてですが、やはり現地で感じることと事前に調べていた時に受けた印象とは異なっていました。データ上で見えるものと、実際の当事者から見えるものはやはり違うのだと言うことがよくわかつたし、そのことを実感できたのも、GET をやってきたからだ考えると、本当に素晴らしい活動だと思ひます。また、語学面でも知識面でも、香港の学生は皆能力が高く、本当に刺激を受けました。特に、彼らの英語、日本語の能力は素晴らしく、わが身を顧みるいい機会を貰ったと思ひます。

GET の活動の良い面は、学生の手で計画し、ゼロから始めていく、というスタイルから生まれてくるところも多いと思ひます。自分たちで考え、行動しなければ何も始まらない。自分たちの未熟さや知識の無さを思い知ると共に、たくさん話し合いを重ねて問題を解決していく難しさと大切さを知ったことも、これからの大きな糧になると確信しています。

これからの GET の活動も、単なる国際交流から得られるもの以上のものを得、人間としての深みを増すことのできるものであることを切に願っています。

最後に、日本領事館との折衝や、香港での講義など、大変お世話になった岡田先生、一年間一緒に活動してきた香港・スイスメンバーの皆、様々な刺激を与えてくれた香港側のメンバーの皆に、心からの感謝を述べたいと思ひます。本当にありがとうございました。

GETの活動を終えて

大田 愛子

GETで過ごした1年間は、今振り返るととても速かった。私は7月に入ったので、受け入れにほとんど携わることができなかったのが、もっとも残念だ。

香港で過ごした10日間は、もちろんとても印象深くたくさんのことを学んだが、GETの活動はそのまえの準備の段階から多くのことを学ばせてもらった。GETに入っていなければ、香港についてこんなに勉強することもなかつたろうし、いろいろな人と出会うこともできなかつたろう。また、自分の意見を人に伝えられるようになったし、発言することや議論することの重要性も知った。勉強会や準備の段階では、大変だと思うことも多かったが、今となってみればとても自分のためになったと思う。

香港での活動で感じたこと。香港の学生は日本語を専攻しているだけあって、とても日本に興味を持っていたし、日本についてもいろいろ知っていた。そのため、街を歩いている時も日本との違いなどを細かに説明してくれた。彼女たちが日本に対して憧れを抱き、日本語を勉強してくれているのがすごくうれしかった。香港人と日本人の会話の多くは日本語で行われた。これは、彼女たちにとって第三外国語である日本語のほうが私たちにとって第二外国語である英語よりもスムーズに会話を進められたためであり、彼女たちの意欲的に勉強する姿を見ていると、日本の学生の怠惰さに気づきもっと頑張らなければならないと思った。一国二制度というあいまいな状況に置かれた香港では、香港の学生は中国について同じ国だという意識は、低いと私は感じた。このように、言葉ではなかなか伝えられない現地の人のアイデンティティーをじかに感じることはできたのは、とても有意義であった。これは単なる海外旅行では絶対に、知ることはできないことであり、現地の学生と密接になり、たくさんのお話を話したからこそ知りえたことだと思う。香港での生活において、さまざまな日本とのライフスタイルの違いを感じることもあったが、このグローバル化の進む世の中において、同年代の彼女たちとは考え方も通じることが多く、日本の学生と同じような悩みをかかえており、人間としてもとても打ち解けられたのがよかった。

やはり、GETの醍醐味は人との出会いだと思う。GETの日本人メンバーはみんな国際交流にとっても興味を持っている人たちばかりであり、話し合いをしても、深い考察に驚くことばかりだった。こんな素敵な仲間と出会えたことを誇りに思う。

そして、このGETプロジェクトを各方面から支えてくださった、大田先生、岡田先生、OB、OGの方々、アドバイザーの方々本当にありがとうございました。

Hitotsubashi Uni

SWISS PJ

St.Gallen Uni

In Japan

' 08.02.10 ~ ' 08.02.24

In Switzerland

' 08.03.24 ~ ' 08.04.07



GET2008 スイスプロジェクト チーフ挨拶

仲田 陽子

スイスプロジェクトは GET の中でも最も古くから始まったプロジェクトで、スイスのザンクトガレン大学の団体である ASA (Asian Students Association) とのエクステンジプログラムが今年で 10 年を迎えました。その節目の年である GET2008 のスイスプロジェクトは、メンバー計 10 人という大人数でプログラムを作り上げました。一年生 8 名、二年生 1 名、四年生 1 名という、一年生が主体となって活動した一年間でしたが、学年の壁を超えたプログラムを 10 人全員で作りに上げることができたと自負しております。

ここに、スイスプロジェクトのエクステンジプログラムの目標を、紹介させて頂きたいと思います。私たちはスイス人に日本をとことん満喫してもらうことを目標に、一年間をかけて綿密な準備を重ねました。GET メンバーと ASA メンバーが互いに問いかけあったのは、「Are you hungry? 」という質問です。これには、「あなたの知的好奇心は飢えていますか？興味・関心のあることについて、もっと深く追求したくありませんか？」という意味が含まれています。互いの 2 週間のエクステンジプログラムの後に、「I'm full!!! 」という答えをもらうことを目標にプログラムを行い、私たちは互いに「満たされた!!! 」と答えてプログラムを終了しました。

では、GET2008 のスイスメンバー達は、どのような目標を持ってエクステンジに臨んだのでしょうか。ここに一部を紹介させていただきます。「ホームステイの体験を人生に活かしたい。」「英語力を伸ばすインセンティブにしたい。」「普段の生活では関わらない外国人と関わりたい。」「ヨーロッパ文化に触れてみたい。」「ホームステイを通して、スイスの大学生の生活を詳しく知りたい。」「初めての海外をただの旅行で得るもの以上にしたい。」「欧米に対するステレオタイプを払拭したい。」「涉外付き合える友達と出会いたい。」

さて、GET2008 スイスメンバーからのエクステンジが終わった感想では、確かに上記にあげた目標をみな達成することができ、また達成までいかなくとも触れることができた、との答えが返ってきました。

しかし、GET2008 スイスメンバーはいまだに Full になってはいません。GET の活動が、むしろ、何か他のことをやりたい!!! というインセンティブになった、と多くのメンバーから聞くことができました。この一年を終えて、私達は満足したわけではありません。むしろこの一年は、新たな興味・関心を沸き起こし、私達にとって今の自分を見つめなおす、大きなきっかけとなりました。

この報告書は、この一年間、そしてエクステンジプログラムを経て、私達が何を得たかの集大成です。GET の活動はスタートでしかありません。この先、GET で得たものを糧に、メンバーはそれぞれ新しいフィールドで活躍していくことと思います。

最後になりましたが、GET2008 スイスプロジェクトを支えてくださった全ての方々、ありがとうございました。

ASA-GET Exchange 2008

My field report about our exchange program starts around one year ago, when I got recruited for the ASA Japan exchange project. My team and I were all longing for the same goal – go to Japan and get in contact with the Japanese culture and the members of GET – what let us work nicely together to achieve this goal. It was fantastic to see how we got from a working team to a team of friends. Finally we finished all the preparation and could take off for Japan.

Our two weeks in Japan and the two weeks in Switzerland have been fantastic. We had a great schedule, if sightseeing, traditional culture stuff, company visits or the joint forum, everything helped us to get in contact with the members of GET and the Japanese culture itself. Apart from that I profited in the way that I gained many impressions, that I could see things, and most of all our behaviour, from a different perspective.

To sum it up the whole trip offered a broad range of influences to both members of ASA and GET.

I congratulate the success of the ASA-GET Exchange program 2008.

Claudia Lang, 26. May 2008



GET2008 スイス PJ 日本メンバー紹介

仲田 陽子

学年: 2 年

学部: 法学部

スイス PJ: チーフ

パートナー: Claudia Lang



三好 藍子

学年: 2 年

学部: 経済学部

全体: 議事録係

スイス PJ: サブチーフ、交通費係

パートナー: Nadin Hasler



木下 詠津子

学年: 3 年

学部: 社会学部

全体: 代表

パートナー: Andreas Denzler



新井 洋平

学年: 2 年

学部: 商学部

全体: 一橋祭係

スイス PJ: 渉外係、会計係

パートナー: Doruk Guentay



大江 恭平

学年: 2 年

学部: 経済学部

全体: 合宿係

スイス PJ: ジョイントフォーラム係、勉強会係

パートナー: Jonas Honegger



加藤 惟

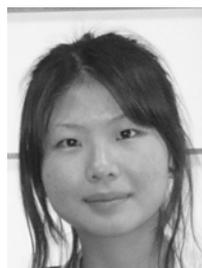
学年:2年

学部:社会学部

全体:名簿係、連絡網係

スイスPJ:議事録係、しおり係

パートナー:Jenny Kahn



藤平 奈那子

学年:2年

学部:社会学部

全体:教育係、報告書係

スイスPJ:書記係

パートナー:Desiree Muller



垂水 勇大

学年:2年

学部:商学部

スイスPJ:航空券係、写真係

パートナー:Sascha Kalin



森 泰樹

学年:2年

学部:商学部

スイスPJ:保険係、会計係、写真係

パートナー:Daniel Angehrn



新田 志帆

学年:修士1年

学部:経済学研究科

パートナー:Andreas Denzler



GET2008 スイス PJ スイスメンバー紹介

Andreas Denzler

パートナー: 木下詠津子、新田志帆



Claudia Lang

パートナー: 仲田陽子



Nadin Hasler

パートナー: 三好藍子



Doruk Guentay

パートナー: 新井洋平



Jonas Honegger

パートナー: 大江恭平



Jenny Kahn

パートナー: 加藤 惟



Desiree Muller

パートナー: 藤平 奈那子



Sascha Kalin

パートナー: 垂水 勇大



Daniel Angehrn

パートナー: 森 泰樹



Days in Japan

- 2/10 Welcome party
- 2/11 秋葉原/六本木
- 2/12 J F /国会議事堂
/カクテルパーティー
- 2/13,14 箱根旅行
- 2/15 国連大学(渋谷/原宿)
- 2/16 X-JAPAN
(日本文化体験イベント)



- 2/17 J F /大学見学
- 2/18 TOSHIBA府中工場
- 2/19,20 FREE DAY
- 2/21 ディズニーランド
- 2/22 築地/歌舞伎/浅草
- 2/23 鎌倉/Farewell party

2月10日（日曜日） Welcome Day

担当者：新田 志帆

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|----------------|------------|
| 18:00 | 東京駅 | 集合 |
| 18:30 | 月の雫 八重洲中央口店 | ウェルカムパーティー |
| 20:30 | | 解散 |



● レポート ●

スイスメンバーの内、前日に入国した組、当日に入国した組、京都旅行後の組、また日本人メンバー全員滞りなく、時間通り集合した。PJ メンバー全員の初顔合わせであり、メンバーの顔にも緊張の色が見えた。

Welcome Party では、オリエンテーションをメインで行った。GET・ASA 両チーフ挨拶、自己紹介、日程説明、会計報告、プログラム最終日のコース選択が主な内容である。事務連絡にも不足はなかった。

進行はスムーズで、最初は緊張の見たメンバーも、個室という環境も手伝い、Welcome Party は終始和やかな雰囲気に進んだ。この先待っている未知なる2週間に、希望が膨らんでくるような好調なスタートであったと思う。

2月11日(月曜日) 秋葉原/六本木 Day

担当者：加藤 惟

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|---------|-------------------|
| 10:00 | 秋葉原駅 | 集合 メインストリートを散策 |
| 11:30 | | メイドカフェ |
| 13:00 | ヨドバシカメラ | 自由行動 |
| 13:40 | 秋葉原駅 | 集合 |
| 14:15 | 六本木駅 | 地下鉄で六本木へ移動 |
| 14:45 | 国立新美術館 | 「横山大観展」鑑賞 |
| 15:00～16:30 | 六本木ヒルズ | 東京シティービューで東京の夜景鑑賞 |
| 17:00～18:00 | | 森美術館鑑賞 |

● レポート ●

午前中は秋葉原の街をグループに分かれて自由行動にした。ヨドバシなどの電化製品専門店の大きさや品揃えには彼らも喜んでいるようだった。昼食はメイドカフェでとったが、メイドさんのインパクトがかなり強かったようで、こういったことを女性が進んでやるということに驚いていた。こういった女性の権利を軽視するようなことはヨーロッパではあり得ないとあるスイスの学生は言っていたが、今までみたこともないカフェで楽しんでいた。

午後は、地下鉄で秋葉原から六本木へ移動し、国立新美術館と六本木ヒルズを訪れた。国立新美術館では「横山大観展」を鑑賞した。館内はかなり混雑していたが、日本の伝統美術を鑑賞する良い機会となった。スイスの学生たちも作品にじっくりと見入っていて、好評だった。その後、六本木ヒルズに移動し、展望台にのぼった。夕方から日没の時間にかけて展望台で過ごしたので、東京タワーなどの景色と夜景の両方を見ることができた。展望台と併設されている森美術館では日本の現代美術の展覧会も開催されており、希望者はこちらも鑑賞した。

初日からハードスケジュールだったが、最近の日本と伝統的な日本の両方に触れられて、スイスの学生へ与えた印象も強かったと思う。

2月12日(火曜日) JF/国会議事堂/カクテル パーティーDay

担当者：新井 洋平

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|----------|--------------|
| 9:00 | 一橋大学 | 集合 |
| 9:30 | | ジョイントフォーラム開始 |
| 12:30 | 大学生協 | 昼食 |
| 15:00 | 国会議事堂 | 見学 |
| 16:15 | 渋谷 | 自由行動 |
| 18:00 | スイス大使館官舎 | カクテルパーティー |
| 20:30 | | パーティー終了 |
| 21:00 | 居酒屋 | Nadinの誕生日会 |
| 22:00 | | 解散 |

● レポート ●

この日はジョイントフォーラム一日目であった。第一回目は、「移民」についての日本人によるプレゼンテーションを行い、その後スイス人にあらかじめ日本人が渡していた質問に対する返答をしてもらった。プレゼンテーションは日本の移民、スイスの移民などについておこなったが、内容は充実していたと思う。スイス人に対する質問については、家族のバックグラウンドといった実生活についての質問をしたが、彼らの返答は大変興味深かった。親がトルコからの移民であったり、母、父それぞれがスイスのフランス圏とドイツ圏であったりなど、人それぞれ非常に異なったバックグラウンドをもっていた。また、同じ国でも違う言語を地域によって話すため、それぞれの言語を義務教育でならうなど、さまざまな点で日本との違いに驚いた。全体を通して、今回のジョイントフォーラムはお互いの国の移民について知識を得られて充実していた。

国会議事堂は、一緒にまわったガイドさんの英語での解説の少なさにスイス人にとってはあまり日本の政治について理解が深まらなかったのではと残念だが、日本の政治が行われる重要な建物を見物できたのはよかったと思う。

カクテルパーティーでは、スイス企業のCFOや日本政府の留学支援機関の人、一橋大学の教授など著名な方が来ており、普段行くことのないような場で、そのような方々とお話ができ、日本人、スイスの学生ともいい経験になったと思う。

2月13日(水曜日) 箱根 Day

担当者：木下 詠津子／森 泰樹

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|------|----------------|
| 10:10 | 新宿駅 | 集合 |
| 10:40 | 新宿駅 | 出発 |
| 12:13 | 小田原駅 | 到着 |
| 12:30～ | 昼食 | 小田原にてグループごとに昼食 |
| 13:30 | 小田原城 | 全員で、小田原城天守閣 見学 |
| 16:00 | 箱根湯本 | 南風荘着 |
| 18:00～ | | 夕食 |

●レポート●

箱根旅行の1日目。関東の有名な観光地である箱根を満喫してほしいと思い計画した。行きの車中では90分ほどの時間があつたのでスイスの学生とゆっくり交流できる場が持てた。また車窓から見える富士山に日本の学生、スイスの学生共々興奮していたのが印象的だった。小田原ではグループに分かれて昼食をとった。店に飾ってある雛人形の写真を撮るなど、日本の伝統文化に興味を示している様だった。

午後は小田原城の天守閣を見学した。日本のお城や建築様式は珍しいと関心を示していた。また天守閣からの眺望も素晴らしく、海を見渡すことが出来たため大変喜ばれた。その後はホテルに向かい、皆早速お風呂へと向かっていた。温泉に裸で入浴する事に対しても混乱はなく皆楽しんでた。好きな人は朝風呂にも入っていたほどである。

夕食は美味しいお寿司だった。自分達の中ではヨーロッパでは寿司は普及しているイメージだったが、生魚がダメや、甲殻類が食べられない、など苦手な人も見受けられた。その後は一部屋に集まりゲームをしたり話したりと楽しく過ごすことが出来、親睦を深めることが出来たと思う。

2月14日(木曜日) 箱根 Day

担当者：木下 詠津子／森 泰樹

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|-------|------------------|
| 7:30 | | 起床 |
| 8:00～ | | 朝食 |
| 10:00 | 南風荘 | 出発 リムジンバスで箱根湯本駅へ |
| 10:25 | 箱根湯本駅 | 出発 箱根登山鉄道で強羅駅へ |
| 11:06 | 強羅駅 | 出発 ケーブルカーで早雲山駅へ |
| 11:27 | 早雲山駅 | 出発 ロープウェイで大涌谷駅へ |
| 11:40～ | 大涌谷 | 昼食後、大涌谷散策 |
| ～15:40 | 小田原駅 | 到着 |
| 17:10 | 新宿駅 | 解散 |

●レポート●

箱根旅行2日目。この日は大涌谷散策がメインで、昼食も大涌谷で取った。昼食は和食の御膳で鍋料理が付いており、スイスの学生たちも珍しい様子で興味を持っていた。大涌谷からの富士山の眺めは素晴らしくスイス人たちも喜んでいるようだった。また、ケーブルカーや登山鉄道などの技術はスイスから取り入れたものだそうで、駅にスイスの国旗やカウベルもあったため非常に喜んでいて。帰りは皆疲れ果てて寝ていた人も多かったが、箱根の魅力を十分に伝えることが出来る内容で、とても充実した2日間だったと思う。

2日間にわたっての箱根旅行だったが、お城や海、富士山や温泉に浴衣と、スイスには無い日本特有の文化を伝えることが出来たと思う。またプログラムの前半に1泊の旅行を入れたことで接する機会が沢山持て、その後のプログラムにも良い影響を与えたのではないかと思う。

2月15日(金曜日) 国連大学(渋谷/原宿)Day

担当者：藤平 奈那子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|--------------------------|---|
| 12:50 | 渋谷駅 | 集合 |
| 13:30～ | ～徒歩～ 国連大学 (UN ハウス) | 国連大学訪問 ・ UN ハウス内見学 ・ UN 広報センターの宮地さんの言葉 ・ UNHCR 日本代表のブリーフィング ・ ILO 日本代表のブリーフィング ・ 会議場見学 |
| 16:00～18:20 | ～徒歩～ 原宿 | 明治神宮見学、原宿フリータイム |
| 18:30～ | 沖縄料理店 | 夕食 (飲み放題付沖縄料理) |

●レポート●

受け入れ期間の中でも、アカデミックな要素がメインの1日だった。

国連大学を訪れることはもちろん、国連機関の UNHCR や ILO の日本代表の方からお話を聞ける機会はとても貴重であった。今年度の GET は「移民」について勉強しているため、そのような分野に関連するお話を伺いたいという希望を受け入れてくださり、パワーポイントを使ってのプレゼンテーションをしてくださった。スイスの学生からも積極的に質問が出され濃い時間にする事ができた。難民や移民の現状や、国連機関の活動について学ぶことができとても勉強になった。

原宿では、特にスイスの女性陣がショッピングを楽しめたようだ。また、皆で明治神宮に行けたことも良かった。

沖縄料理も、独特の郷土料理としてスイスの学生の皆に楽しんでもらうことができた。

2月16日(土曜日) X(クロス)-JAPAN Day

担当者：木下 詠津子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|-----------|--------------------------|
| 11:50 | 一橋学園駅 | 集合 |
| 12:00～ | 小平市国際交流協会 | 如意団（座禅サークル）によるデモンストレーション |
| 12:30～ | | 茶道体験 |
| 14:00～ | | 着物試着 |
| 15:40～ | | 生け花体験 |
| 17:00～ | | 小平市国際交流協会主催「国際交流パーティー」参加 |
| 18:00～ | | 夕食（お好み焼き） |

●レポート●

受け入れ中のイベントとして、メンバーの意見の中から、日本の伝統文化体験というアイデアを取り上げ、2ヶ月ほど前から計画を練った。小平市国際協会様のご協力もあり、私たちだけでは提供することのできない、質の高い体験コースを作り上げることをできた。外部の方と連絡をとることに慣れない私たちの中に課題も残ったが、スイスの学生に日本の伝統に触れてもらいたいという思いは達成できたように感じる。

日本の伝統文化体験というアイデア自体に斬新さはないが、実際、それを行おうとすると、さまざまな困難が生じた。日常では触れることのできない「ハレ」の部分であるゆえ、普段の受け入れの日程をこなしているだけでは、日本の伝統に直に触れるということとはできない。そのような文脈において、このイベントは、アカデミック活動の“Joint Forum”や交流活動の観光と同様に私たちが掲げた受け入れの目標を達成するのに不可欠なものであったと思う。

スイスの学生は、「私たちにはこういう形の伝統的な衣装がないからうらやましい。」と言い、着物を試着できたことをとても喜んでいて、たしかに、私たちにとって七五三や成人式、卒業式などのイベントで着る最高のフォーマルはやはり着物である。着物がただの「きれいな衣装」ではなくそういう意味を持つから人を引きつけるのだろうと考えた。文化の違いという点では、彼らにとって正座はかなり苦痛であったようである。ただ、痛いながらも挑戦しようとする姿に、私たちを理解しようとしてくれる気持ちを垣間見て、とてもうれしく感じた。

2月17日(日曜日) JF/キャンパスツアー Day

担当者：仲田 陽子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|------------|----------|
| 9:00 | 学校 | 学校集合 |
| 9:30 | | JF2 日目開始 |
| 12:00 | | 昼食 (ピザ) |
| 15:20 | | キャンパスツアー |
| 15:45 | 国立 カラオケ | 弓道部見学 |
| 17:00 | | 夕食 |
| 18:30 | | カラオケ |
| 21:30 | | 解散 |

● レポート ●

午前中は Joint Forum、午後は学校見学、夜はカラオケと充実した一日だった。

Joint Forum では移民について、スイス人と熱く議論を戦わせた。英語力がいたらない部分もあったが、ディスカッションの慣れという点で、スイス人との差に苦しんだ。互いの意見の相違、スイス人との意思疎通の難しさも実感したが、最終的にはそれを乗り越えて、スイス人との距離が縮まった。

キャンパスツアーでは、私たちの通う一橋大学構内を回ることで、スイス人に日本の大学生活がどんなものか理解してもらうことに役立った。弓道部の見学では日本の伝統的なスポーツに触れることができた。

カラオケは日本発のポップカルチャーということで、スイス人も楽しみにしていた。スイスでもカラオケに行ったこともあるというメンバーはもちろん、初めてのメンバーにも好評で、一緒に歌ったり踊ったりと楽しいひと時を過ごし、盛り上がった。

2月18日(月曜日) TOSHIBA/Club Day

担当者：仲田 陽子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|------------------|-----------------|
| 13:30～ | 北府中駅 | 北府中駅集合 |
| 14:00～ | TOSHIBA 府中 工場 | 工場見学 |
| 18:30～ | 新宿 | 夕食・新宿散策（グループにて） |
| 20:00～ | | ゲームセンター体験 |
| 21:30～ | 渋谷 | クラブナイト |

● レポート ●

企業訪問の一環として東芝府中工場を見学した。日本の技術をスイス人に見てもらい良い機会となった。府中工場は広大な敷地を所有しており、バスにて回った。TOSHIBA が英語でガイドを提供してくれたので、詳しい説明をスイス人も理解する事ができた。工場では、電車車両や、内部の電光掲示上下水道の整備システムなど、工場で開発している様々なものを見た。日本人にとっても、普段は立ち入ることのない裏側を見ることができて、興味深かった。

新宿を散策した後、日本のポップカルチャーであるゲームセンターで、プリクラを取ったりゲームで遊んだりした。改めて日本の文化が世界に浸透していることがわかり嬉しかった。やはりゲームの分野では日本製品は有名である。

クラブでは、スイスとのクラブとの違いにスイス人は多少戸惑ったようであったが、一緒に楽しむことができた。

2月21日(木曜日) ディズニーランド Day

担当者：垂水 勇大／大江 恭平

| 時間 | 場所 | 内容 |
|----------|--------------|-----------------|
| 10:00 | 舞浜駅 | 集合 |
| 10:30 | ディズニー ランド | 3グループに分かれ解散 |
| 12:00 ごろ | | 各グループで昼食 |
| 18:00 | シンデレラ城前 | 集合後、シンデレラの戴冠式鑑賞 |
| 20:30 | 舞浜駅 | 解散 |



●レポート●

3グループに分けて行動した。グループを分ける際には、これまでの活動中にあまり接する機会の少なかった人同士がグループになるよう留意して班分けを行った。ディズニーランドは待ち時間が長いため、1日同じグループで行動する中で普段話すことの少なかったスイス人の学生ともたくさんコミュニケーションをとることが出来た。ディズニーランドの様な童心に帰っておもいきりはしゃげる場所に行くことで、見えてくるスイス人メンバーの新たな一面もあったように思われる。この日を境にお互いをより一層理解し合えるようになったと思う。

2月22日(金曜日) 築地/銀座/浅草 Day

担当者：大江恭平／垂水勇大

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|-------|----------------------------|
| 10:45 | 築地市場駅 | 集合。グループ別に築地市場観光 |
| 11:30 | 築地・銀座 | 築地・銀座にて各グループで昼食（寿司 etc） |
| 13:40 | 東銀座 | 銀座歌舞伎座集合 |
| 14:15 | | 銀座歌舞伎座にて 歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」鑑賞 |
| 16:20 | 浅草 | 浅草にて浅草寺・仲見世通り観光 |
| 17:45 | | 解散 |



● レポート ●

築地、銀座、浅草とそれぞれ隣接している観光地を一日にまとめて観光した一日であった。歌舞伎座や築地魚市場、浅草寺など伝統的な日本文化の代表となるような観光地を一日で回ることによって、日本に来る以前からスイス人学生が持っていたであろう「日本」という国のイメージに近いものを見せられたなと思う。

特に歌舞伎は、オーディオガイドを用意したこともあってか、彼らにとっては例え言葉が理解出来ずとも多少なりは楽しめたように見受けられた。また築地などは私たち日本の学生にとっても身近ではない場所であったが、海に面していないスイスで生活している彼らにとっては、それ以上に特異で興味深いものであったようだ。

2月23日(金曜日) 鎌倉/Farewell Party Day

担当者：新田 志帆／三好 藍子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|-----------|----------------|
| 10:30 | 長谷駅 | 集合 |
| 10:45 | 高德院 | 大仏観光 |
| 11:30 | 長谷寺 | 寺院観光 |
| 12:00 | 北鎌倉「笹野の葉」 | 昼食 |
| 13:30 | 円覚寺 | お茶 |
| 15:00 | 鶴岡八幡宮 | 観光 |
| | 若宮大路 | 散策 |
| 17:00 | 建長寺 | 座禅体験 |
| 19:30 | 笑笑 | Farewell Party |

●レポート●

プログラム最終日の疲れを考慮し、遅めの集合とした。しかし、メンバー皆最終日の疲れを感じさせないほど楽しんでいただけたようだ。日本古来から存在する様々な伝統に触れ、日本文化を十分に堪能できた一日であっただろう。

高德院では、大仏の重厚さとその存在感に、長谷寺では、海を臨む小高い丘からの景色に、スイスメンバー・日本メンバー問わず皆息を呑み、心癒された。昼食は200年前の民家を改築した食事処で精進料理をいただいた。

鎌倉ではお茶体験や座禅体験、と日本の伝統を体験できるような日を用意した。スイス人はお寺ではおみくじを引いたり、お参りをしていたりと楽しんでいる様子であった。

建長寺での座禅は嵐の中でのとても寒い座禅となったのだが、スイス学生・日本学生両メンバーとも耐えきり、日本人でさえなかなか体験できない貴重な思い出となった。

フェアウェルパーティーは悲しみながらも次回スイスで会える楽しみを語り合いながら日本での最後の夕食となった。

Days in Switzerland

3/25 GRAUBUNDEN
グラウビュンデン

3/26 ZURICH
チューリッヒ

3/27 ST.GALLEN
ザンクトガレン

3/28 GENEVA/LAUSANNE
ジュネーブ/ローザンヌ

3/29 MATTERHORN
マッターホルン

3/30 FREE DAY
フリーデー



3/31 LUCERNE
ルツェルン

4/1 SCHAFFHAUSEN
シャフハウゼン

4/2 JOINT FORUM
ジョイントフォーラム

4/3 BERNE
ベルン

4/4 STUTTGART
シュツットガルト

4/5 FREE DAY
フリーデー

4/6 APPENZELL
アッペンツェル



3月24日 Welcome Party Day

担当者：藤平 奈那子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|--------|---------------|---------------------------------|
| 16:00～ | Desiree の父親の家 | 歓迎会、Desiree の父親の所有する車のコレクションの見学 |
| 18:00～ | Desiree の家 | ウェルカムパーティー（チーズフォンデュ&持ち寄り） |

●レポート●

スイス最初の夜だ。それにふさわしく、豪華でとても楽しい夕食会になった。

ウェルカムパーティーの前には、近くに住む Desiree の父親が、ASA メンバーと GET メンバーの皆を家に招いてくれ、彼の所有する高級車の数々を見学した。ガレージには高級車が並び、Desiree の父親から車に関する説明を聞いたり、写真を撮ったりして、皆興奮した様子であった。

ウェルカムパーティーは、家族とともに暮らしている Desiree の家に ASA メンバーと GET メンバー全員が招かれ、チーズフォンデュをごちそうになった。GET メンバーは皆本場の味にとっても喜んでいて、また、各メンバーがサラダやケーキを持ち寄ったりした。ダイニングテーブルと長いテーブルを囲んで、とても美味しいスイスの夕食を和気あいあいと楽しむことができた。1 か月ぶりの再会を、お互いに喜び合っていた。スイスでの素敵な初日になった。



3月25日(月曜日) Graubunden Day

担当者：仲田 陽子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|--------------------|-----------------------------------|
| 7:50 | ザンクトガレン 駅 | 集合 |
| 9:45 | クールオールド タウン | グループでショッピング Martin 教会見学 大聖堂 |
| 12:30 | | クール高校を見学 伝統的なグラウブンデンの昼食 |
| 14:34 | | |
| 15:45 | ハイジ村 | ハイジ村へ登山 ハイジ村のガイドツアー |
| 17:15 | ジェニー実家 メインフィールド | 伝統的なグラウブンデンの夕食 |
| 19:30 | ザンクトガレン 駅 | 到着 |

● レポート ●

この日はグラウブンデン（山に囲まれた小さな町）を観光した。あいにく天候は雪で周りの山はよく見えなかったが、雪景色はとても美しかった。

昼ごはんには Claudia のお母が伝統的なスイス料理を作ってくれ、皆で会食した。

その後、日本でも有名なハイジの山をハイキングしながら登った。ここでも雪のため足場は悪かったが、スイスの冬を経験したという意味では貴重だっただろう。ハイジの家では日本語の標識があるなど、スイスの観光的な面も目にした。徒歩で山に登る経験はこの日のみだったので、改めてその自然の雄大さに感動した。

Jennie の実家に招待してもらった。有名なスイスチーズや、おいしいハムなど、色々な味を楽しんだ。

特にこの日はメンバーの家庭にお邪魔することが多かったのだが、スイスの伝統的な家庭に触れるいい機会で、日本人に好評だった。これはGETとしてスイスに行くからこそできた貴重な体験だった。

3月26日(水曜日) Zurich Day

担当者：三好 藍子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|--------------------------|----------------------------|
| 8:40 | ザンクトガレン駅 | 集合 |
| 9:55 | チューリッヒ チューリッヒ国立博物館 | チューリッヒ国立博物館 |
| | チューリッヒ工科大学 | 見学 |
| | チューリッヒ大学 | 昼食 |
| 12:20 | Grossmunster 教会 | 見学 |
| 13:25 | Fraumunster 教会 チューリッヒ | 見学 散策・Bahnhofstrasse 散策 |
| 16:25 | | Freitag 本店 |
| 18:30 | | Crazy Cow にて夕食 |
| 21:00 | | PurPur Pub にて歓談 |

●レポート●

この日は金融機関が多く集まるスイス第一の都市チューリッヒを訪れた。これからスイスを観光するにあたってまずはスイスの歴史を知ってほしいということでスイス国立博物館へと行き、スイス人の親切なガイドでスイスの歴史の大まかな流れを把握した。その後チューリッヒ大学とチューリッヒ工科大学を見学し、チューリッヒ大学の学食で昼食を食べた。多くの生徒が学食で食べており、スイス人学生の大学内の生活を垣間見ることができた。学食自体はヘルシー思考が普及している印象を持った。

昼食後、カトリックの教会フラウミュンスターとプロテスタント教会のグロスミュンスターを訪れた。ここでスイス人がカトリック教会とプロテスタント教会の違いについて説明してくれた。今まで宗派は違うのは分かっていたがカトリック教会の内装は豪華であるがプロテスタント教会はとても質素であり、十字架を一切飾らないことを知り、信仰の考え方が明らかに内装に反映されていたのを知ってとても興味深かった。チューリッヒでは旧市街を散策、高級ショッピング地域などを見て回り、チョコレートを食べたり、また、凝ったショーウィンドーに魅せられた。トラックの幌から作られた鞆を売りにしている Freitag のお店で日本人メンバー11人中6人も鞆を買う珍しい光景が見られた。

夕食はスイスの有名なチョコレートや民族衣装などを内装にしたレストランでスイス伝統料理を食べ、その後近くにあるお酒落なパブで素敵な時を過ごした。

3月27日(木曜日) St.Gallen Day

担当者：加藤 惟

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|---------------|---------------------------------|
| 9:00 | ザンクトガレン 駅 | 集合 |
| 9:15～11:30 | ザンクトガレン 市街 | ガイドツアー 大聖堂、修道院図書館見学 |
| 11:30～13:30 | メンバーの自宅 | 昼食 |
| 13:45～15:00 | ザンクトガレン 市街 | テキスタイルミュージアム見学 |
| 15:00～17:00 | | ショッピング |
| 17:15～ | ザンクトガレン 大学 | 在スイス日本大使館の方によるスピーチ |
| 19:00～ | | 学生団体 Oikos のミーティング参加 夕食 (ピザ) |

●レポート●

この日は、大学のあるザンクトガレンで1日を過ごした。午前中は市役所の観光案内の方に市内を案内していただいた。ユネスコの世界文化遺産にも登録されている大聖堂と修道院図書館はとても美しかった。

午後はテキスタイルミュージアムを訪れた。ザンクトガレンは中世以来、繊維産業で栄えた都市であり、ミュージアムには繊細なレースなどが多数展示されていた。

その後、大学に移動し、日本大使館の方から、主に経済面から見た日本とスイスの関係についてスピーチをしていただいた。スピーチには、大学で日本語を学んでいる学生たちも参加し、スピーチ後には彼らと立食しながら話す時間を持つことができた。

夜は、メンバーの一人が所属している“Oikos”という学生団体の活動に参加し、「水の sustainability」についてのスピーチを聞いた。この日は、電車移動もなくゆったりとザンクトガレンの街で過ごすことができ、またメンバー以外のザンクトガレン大学の学生たちとも交流する機会があったり、アカデミック要素も織り込まれていたり充実していた。

3月28日(金曜日) Geneva/Lausanne Day

担当者：大江 恭平

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|---------|-----------------------------------|
| 7:00 | ザンクトガレン | 集合 |
| 12:00 | ジュネーブ | スイス赤十字本部訪問 昼食 国際連合ヨーロッパ本部訪問 |
| 17:30 | ローザンヌ | ローザンヌへ移動 |
| 18:30 | | ローザンヌユースホステル宿泊 |

● レポート ●

この日はスイスの中でも特に有名な国際都市、ジュネーブを訪れた。ジュネーブは第二次大戦前、国際連盟の本部が置かれていた都市ということでも有名であるが、現在においてもスイスという国が永世中立国であるという性格上、数多くの国際機関がここジュネーブにオフィスを構えている。今回我々はその中でも有名な赤十字本部及び国際連合ヨーロッパ本部の二箇所を見学させていただいた。

赤十字協会ではガイドの方の案内で、赤十字がどのようにしてその役割を果たし、また現在国際社会の中でどのような役割を担っているのか、その歴史を過去から現在への流れで展示された博物館を見て回った。ガイドの方による英語の説明に加え、スイスの学生とともに少人数で回る時間も設けられ、充実した見学となった。特に第一次大戦中捕虜として捕まった兵士たちの名簿がそのまま保存されているライブラリにて、その資料の多さに圧倒されたことが記憶に鮮明に残っている。

国際連合というとニューヨークが連想されるが、ここジュネーブには国連欧州本部が置かれており、この欧州本部はニューヨークに次いで二番目に大きな国連オフィスで年に8000以上の会議が行われている。今回私たちは本会議場等の施設を見学した。実際に働いている方からのお話もうかがえたらと期待していたので、その点は多少残念ではあったが、雰囲気味わえただけでも大いに楽しむことができた。

3月29日(土曜日) Matter horn Day

担当者：大江 恭平

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|---------|------------------|
| 8:15 | ローザンヌ | チェックアウト |
| 9:40 | モントリオール | モントリオール市内・シオン城観光 |
| 11:40 | | ツェルマットへ出発 |
| 14:30 | ツェルマット | 登山電車に乗車 |
| 15:10 | ゴルナグラート | 頂上にてマッターホルンを眺望 |
| 17:10 | | ザンクトガレンへ |

● レポート ●

この日は国際オリンピック委員会本部のあるモントリオール、そしてスイスを代表する山、マッターホルンを望むゴルナグラートを訪れた。

モントリオールはジュネーブ湖を望む美しい街である。オリンピック委員会の本部のほかに、モントリオールジャズフェスティバルでもその名は世界に知られている。またヨーロッパでは有名な広告・メディアコンペティションが開催されることでも有名である。この日は湖畔を散策後、モントリオール近郊にあるシオン城を観光した。ここは11世紀から存在する歴史の古い城で保存状態もよく、世界遺産に登録されている。日本にはないヨーロッパの城はととても興味深く、またスイスの学生による親切なガイドには大いに助けられた。

その後、電車でスイスでも有名な観光地であるツェルマットを訪れた。この街では環境に配慮して自動車の使用が禁止されており、市内は電気自動車と馬車のみ走行が認められている。スイスの環境意識の高さに驚かされた。

ここで登山鉄道に乗り換え、3000メートルを超えるゴルナグラートへと向かい、マッターホルンを眺望した。この日は天候にも恵まれ、日本人メンバーは皆、壮大な景色に圧倒されていた。スイスの美しい自然とヨーロッパならではの長い歴史に基づく遺産を満喫した日となった。

3月31日(土曜日) Lucerne Day

担当者：垂水 勇大

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|---------|----------------|
| 7:40 | ザンクトガレン | 集合、電車でルツェルンへ |
| 9:55 | ルツェルン | 市内散策 |
| | ルツェルン湖 | 遊覧船クルーズ |
| | 氷河博物館 | 見学 |
| | 瀕死のライオン | その後自由行動へ |
| 18:25 | ルツェルン | 集合、電車でザンクトガレンへ |
| 20:58 | ザンクトガレン | 解散 |

●レポート●

この日は、スイスの中心に位置する観光都市ルツェルンを訪れた。ルツェルン駅を降りるとまず、遠方にピラトゥス山とリギ山を臨み、かつて町を守るために使われていた八角形の見張り塔に囲まれたルツェルン湖が目に入ってきた。

最初に訪れたのは、駅前にありルツェルンのシンボルでもあるカペル橋だった。この橋は14世紀に城砦の一部として建造された、屋根付きの木造の橋で八角形の見張り塔とともにルツェルンのシンボルとなっているものだ。一度火事に遭ったため、現在は一部分だけを残しそのほとんどが復元されたものだが、美しい湖に架かる歴史を感じさせる橋はヨーロッパならではの光景だった。

次に、ルツェルン湖を遊覧船で観光した。幸いにもこの日は天候に恵まれ、爽やかな風に吹かれながら雄大な湖を遊覧するには持ってこいの日だった。船の上で各自購入していた昼食をとり、和気あいあいと約2時間のツアーを楽しむことができた。

その後、氷河博物館を訪れた。スイスは標高が高いため氷河期には山岳氷河によって覆い尽くされていたらしく、様々な遺跡や氷河期時代の化石を見ることが出来た。

歴史や自然の雄大さに触れることのできた印象深い1日でした。

4月1日(火曜日) Shaffhausen Day

担当者：新井 洋平

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|-----------|------------|
| 7:50 | ザンクトガレン駅 | 集合 |
| 10:00 | シャハウゼン駅 | 到着 |
| 10:15 | IWC 本社 | 工場見学 |
| 12:00 | Munot 城 | 昼食後城内部のツアー |
| 14:30 | シャハウゼン中心街 | 自由時間 |
| 16:10 | シャハウゼン駅 | 集合 |
| 16:20 | ラインの滝 | 見学 |
| 17:00 | ラウフェン城駅 | 集合 |
| 18:15 | ザンクトガレン駅 | 解散 |

● レポート ●

この日は、ドイツ国境近くのシャハウゼンに行った。まず、IWC 本社を訪問した。この IWC は東スイスで唯一の有名な腕時計の会社で、他の時計会社は西スイスに集まっている。IWC では、実際に腕時計を作っている工場場所を見学させていただいた。工場といっても、IWC の作る腕時計は大変精密で、部品の組み立ては人間の手によって行われているため普通のオフィスのような場所であった。実際、組み立てているところを見せていただいたが、虫眼鏡のようなレンズを着用しての大変細かい作業で、それを見た後に実際の数百万円、数千万円もする腕時計をみたら、そのすごさがわかった気がした。また、組み立てる作業員の間にもランクがあり、それぞれが違う部屋で作業をしていた。一つの腕時計が人の手によって作り上げられているところを見られたことは大変新鮮であった。

ムノート城では、先祖代々見張り番をしている方に案内をしていただいた。ここは昔要塞であったため、屋上の広場には大砲がいくつか置いてある。今では、このお城は街のシンボルであり、たまにこの屋上の広場でコンサートなど行われている。迷路のような地下の通路や、武器庫などをみてヨーロッパの中世の雰囲気を感じた。

そして、最後にラインの滝を見た。ヨーロッパの滝と言われるだけあって、高さこそそこまでないもののその水の勢いの激しさに圧倒された。見ているだけで、本当に飲み込まれそうだった。

4月2日(水曜日) Joint Forum Day

担当者：森 泰樹

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|---------------|---------------------|
| 8:30 | ザンクトガレン 大学 | 集合 |
| 9:00 | | Joint Forum 開始 |
| 9:30 | | Workshop1→プレゼンテーション |
| 11:15 | | 講演：Mr. Peter J Aebi |
| 12:00 | カフェテリア | 昼食 |
| 13:00~14:30 | | Workshop2→プレゼンテーション |
| 夕方 | | 市内散策→パートナーの家に分かれて夕食 |
| 夜 | | バー→カラオケ&クラブ |

●レポート●

ザンクトガレン大学、北京大学、一橋大学の学生総勢 40 名弱で Joint Forum を行った。“Today and Tomorrow”というテーマの下、3大学の学生が混合で3班に分かれ議論を行った。Workshop 1では日本、スイス、中国班に分かれ各々の現状、実態や偏見などを上げ、プレゼンテーションを行った。私は日本班に属していたのだが、スイスの学生から日本のイメージとして過労死が上がったことに驚いた。他にも、テクノロジーやサムライといったポピュラーなものから、労働時間の長さや過労死など社会問題に関するものまでイメージとして挙げられた。Workshop 2では、1で挙げた各国のイメージを踏まえた上で、これからいかにして西洋と東洋が関わっていくかについて議論を行った。同じアジアとはいえまったく異なる視点を持つ北京大学の学生と議論を交わせた事は非常に有益であったと思う。ディスカッション自体のレベルも高く彼らの意識の高さを窺うことが出来た。講演ではスイス-中国間の貿易事業に携わっている Mr. Peter J Abei さんにお越し頂いた。その後はザンクトガレンに近いスイス人の家に分かれて料理を振る舞ってもらい、夜には北京大学の学生とともにバーへ行きディスカッションとは違ったラフな会話を楽しみつつ、互いに良い刺激を与えられたと思う。

4月3日（木曜日） Berne Day

担当者：新田 志帆

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|--------------------|---------------------------|
| 7:40 | ザンクト・ガレン駅 | 集合 |
| 7:48 | ザンクト・ガレン駅 | 出発 |
| 9:57 | ベルン駅 | 到着 |
| 10:15 | ベルン | Bundeshausplatz（国会議事堂前広場） |
| 10:40 | | Zytglogge（鐘楼） |
| 10:50 | | Berner 教会 |
| 11:35 | | Barengraben 熊園 |
| 12:00 | | 昼食 |
| 15:30 | 日本大使館 | 到着 |
| 16:00 | | 大使館員との議論 |
| 17:50 | ベルン駅 | 集合 |
| 18:02 | ベルン駅 | 出発 |
| 19:33 | ウインタートゥアー駅 | 到着 |
| 20:00 | ウインタートゥアー アンディ宅 | バーベキュー |
| 22:00 | ウインタートゥアー駅 | 解散 |

● レポート ●

ベルン観光・日本大使館訪問・BBQというプログラム満載の一日であった。

ベルンは、国家機構の中心ということもあり、都市全体の雰囲気がい思議な重厚感に包まれていた。国会議事堂の前（Bundeshausplatz）では、移民環境改善のデモ隊にも遭遇し、スイスの抱える生の移民問題を目の当たりに出来たことも大きな収穫であったであろう。鐘楼・教会・熊園を一通り観光し、日本大使館に移動した。

日本大使館員のスピーチは、プログラム中二度目ということもあり、多少重複している感があったが、スイス・日本の国交の歴史や両国の抱える問題に対する認識を深めることが出来た点で大変有意義であった。

夕飯はメンバー宅でBBQのケータリングをし、和気藹々と食事をとることができ、皆楽しんでいただけたようだ。

4月4日(金曜日) Stuttgart Day

担当者：木下 詠津子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------|-------------------|-------------------------------------|
| 6:50 | ザンクトガレン駅 | 集合 バスにて移動（4時間） |
| 11:00 | シュツットガルト (ドイツ) | メルセデスベンツの博物館見学 |
| 13:30 | | Unterturkheimにて昼食 |
| 14:30 | | メルセデスベンツによるプレゼンテーション バスにて移動（4時間） |
| 20:30 | ザンクトガレン | メンバーの誕生日パーティー、夕食 |

●レポート●

シュツットガルトはドイツの町で、そこにあるメルセデスベンツ（提携団体 ASA のスポンサー）を訪問した。バスでの4時間に渡る移動はつらいものもあったが、長い時間の中、話をすることのできる貴重な時間ともなった。メンバー全員が驚いたことは、日本人に対して国境におけるパスポートの審査が全くなかったことだ。実際、国境がどこであったのかも定かではなかった。前日に、パスポートを携帯するようにと念を押されていたので、拍子抜けした。スイスはEUに加盟していないが、スイスとドイツにおける国境は、日本と諸外国のそれと違った意味を持っているのだろうと大変興味を覚えた。

メルセデスベンツのあるシュツットガルトは、近代的な建物が並ぶ地域と、中世の雰囲気なたたえた町並みとが混在するような都市であった。町自体を観光する時間がなかったのは非常に残念であったが、一見してもスイスとの違いがあるように感じた。メルセデスベンツの博物館は、膨大な数の車の展示があった。説明や設備もすばらしく、この会社がドイツを代表しているという気概と誇りが感じられた。プレゼンテーションに関しては、同社のインターンシップの募集を告知するものであった。日本においてもインターンシップはメジャーなものになりつつあるが、企業が学生に対して積極的にアピールしているという姿勢には違いを感じた。

帰りは、朝と同様にバスに乗り、4時間かけてザンクトガレンに到着した。時間をかけてバスを利用する理由が経費節約のためというのには、学生であるから共感はあるが、笑ってしまった。ザンクトガレンに到着後は、メンバーの誕生日を祝いさらに親睦を深め合った。

4月6日(日曜日) Appenzell Day

担当者：藤平 奈那子

| 時間 | 場所 | 内容 |
|-------------|--------------------|----------------|
| 9:00 | サンティス | 現地集合 |
| 9:00～11:00 | サンティス | 皆で朝ごはん、お土産、雪遊び |
| 12:00～14:00 | アッペンツェル | 観光 |
| 14:15～16:15 | チーズ工場 | 見学、お土産 |
| 16:30～ | ザンクトガレン市街 | フリータイム |
| 18:00～ | レストラン O'Premier | フェアウエルディナー |
| 20:00～ | バー | フェアウエルパーティー |

●レポート●

スイス最後の1日となった。

サンティスは、スイスと聞いて頭に浮かぶような雪に覆われた雄大な山の連なりで、大量の雪が積もり、斜面は急で切り立っていた。ロープウェイに乗り、山の上にあるレストランや土産屋に行った。吹雪でほとんど外が真っ白だったが、とても楽しめた。ビュッフェスタイルのレストランで、皆で朝食を取った。吹雪の中雪遊びをしたり、写真を撮ったりした後、アッペンツェルへ行き、ショッピングを楽しんだ。この町の建築物は装飾がとても凝っており、立ち並ぶ家や店の一つひとつが、個性的で魅力的で、とてもキュートだった。

フリータイムは、皆でバーへ行ったり、メンバーの家に集まってゲームを楽しんだりした。家に帰って家族との時間を楽しんだりするペアもいた。

最後の夕食は、イタリアンであった。日曜日はあらゆる店が閉まってしまうのだが、メンバーが、日曜も営業しているレストランを探して予約してくれた。とても美味しく、和気あいあいとした雰囲気、皆最後の夜を満喫していた。

その後バーへ行き、思い出を語り合ったり、いろいろな話をしながら楽しんだ。

夜は一人のメンバーの家に集まってゲームをしたり、別れを惜しみあったりした。

スイス最後の最高の日となった。

企業・機関訪問報告①TOSHIBA 府中工場

文責：仲田 陽子

1. 概要

東芝府中工場を訪問。交通機関システム部、交通機関情報システム部、スイッチギア一部、パワー生産制御システム部の見学を行った。

2. 訪問目的

- ① 日本の技術の生産過程を見学すること。
- ② 日本の企業への知識・理解を深めること

3. 訪問報告

- ① イントロダクション

DVD による東芝と府中工場についての詳しい説明を受けた。

- ② 府中工場見学（交通機関システム部、交通機関情報システム部、スイッチギア一部、パワー生産制御システム部）

- ③ 質疑応答

事前に送っていた質問（東芝の国際進出について、東芝と移民の関係について、府中工場について等の質問）の回答をもらった。

4. レポート

日本の技術は有名であるが、その過程を見学することができた。スイスも時計産業などの精密機械で有名な国なので、二カ国を比べる際の比較になった。

この訪問はスイスの学生にも好評で、特に日本の技術に興味のある数人のメンバーは積極的に質問をするなど深い興味を示していた。普段の日常生活であたりまえになっている、電車の電光掲示板システムや監視カメラなどの試行に立ちあうことができ、裏側に隠れている技術を垣間見ることができたようである。パワー制御システムのテストにも立ち会うことができ、日常の裏側で働く技術も目の当たりにした。また、質疑応答では、東芝の経営方針や国際競争において念頭においていることなど、工場についてだけでなく、東芝という会社自体についても話を聞くことができた。

日本人メンバーにとっても今回の訪問は、工場見学、東芝という企業について話を聞くという滅多にない機会であり、全員にとって貴重な体験となった。国際交流というと、相手国のことを学ぶことばかりに目が行きがちであるが、ここで日本が世界に誇ることできる技術は何か、と考える契機になった。世界に名の知れた東芝であるが、日本人である私たちにとっても、日本の技術が世界に誇れるものであることを実感した一日であった。

企業・機関訪問報告②国連大学

文責：藤平 奈那子

1. 概要

国連大学（UN ハウス）を訪問。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連労働事務局（ILO）の各代表の方にお話を伺った。

2. 訪問目的

- ① 労働、人道、国際関係等各分野における「移民」をめぐる状況を、社会面、経済面などのあらゆる分野から学ぶこと。
- ② 移民や難民の現状に、国連機関がどのように関わり対処しているのか、今後の展望等を含めてお話を伺うこと。

3. 訪問報告

① 国連難民高等弁務官事務所代表のブリーフィング

移民・難民を巡る概況、政策、UNHCRの活動、今後の展望などを説明して下さった。

難民（＝政治的な迫害のほか、武力紛争や人権侵害などを逃れるために国境を越えて他国に庇護を求めた人々）とIDPs（international displaced persons＝難民と同様の理由により家を離れるが、国境を越えない人々）の発生サイクルや理由、また難民キャンプの設置や衛生、食糧、本国送還など、彼らを取り巻く様々な問題について学ぶことができた。

② 国連労働事務局代表のブリーフィング

移民を巡る概況、政策、ILOの理念や活動、今後の展望などを説明して下さった。

国際労働基準の下での全ての移民労働者の人権保護、移民労働者の子供たちの悪条件の児童労働、雇用形態差別、公平な労働力移動のプロセス、また送出国及び受入国双方の利益などについて学ぶことができた。

③ 質疑応答

学生から、「移民を含む社会的弱者の雇用状況や労働環境、また彼らを取り巻く問題に対する対策」、「労働力不足に焦点を当てたときの移民の役割」について等の質問が出た。

④ 議事場見学

実際の会議に使われる大会議場を見学した。

4. レポート

GET2008のテーマである「移民」について、また難民やIDPsについての知識と理解を深めることができた。

紛争や貧困、政治的迫害による難民の発生と、彼らの人権や生活の保護という重大な国際的課題、また経済的、社会的要因など、さまざまな理由により国境を越えて労働する人々の人権や労働環境について、スイスの学生と日本の学生が共に学び、考え、話し合う良い機会となった。

GET2008 Switzerland PJ Joint Forum & 勉強会 報告

文責：大江 恭平

GET では毎年、受け入れと訪問の際に各プロジェクトで交流先のメンバーと共に1～2日間に渡ってディスカッションやプレゼンテーション、ディベートを主体としたジョイントフォーラムを行う。また、それを目標にして事前に勉強会も行っている。GET2008 スイスプロジェクトでは、GET 全体の年間テーマが移民であることから、「スイス移民改正法」に主眼を置いて活動を行った。

1. 第一回勉強会

まず「移民問題」について勉強していく前にスイスについての知識を得るべきということで、7月にスイスについての勉強会を行った。この第一回勉強会は、まずメンバーの人数分にトピックを下記のように振り分け、メンバー各自が担当するトピックについて調べレジュメを作成し発表するという方式によるものである。

1. スイスの国土・民族：自然・観光地・言語・民族性・宗教について
2. スイスの法・歴史：その他に永久中立国となった経緯、軍事、国際連盟について
3. スイスの政治・外交：政治体制、EUとの外交政策、欧州内での立ち位置
4. スイスの経済・産業：日本・スイスとの貿易関係について
5. スイスの社会保障：学校制度等の教育政策、福祉など
6. スイスの文化と社会状況：現在の生活スタイルやポップカルチャー、時事・社会問題
7. スイスと日本の関係：その他に日本のスイス大使館について

この勉強会によってスイスに対する基本的な知識を得ることができた。スイスに対する一面的なイメージや先入観などを、ある程度払拭できたように感じられる。またスイスに対する興味をより深めることができ、メンバーのモチベーションを上げることにも繋がったと考えている。

2. 第二回勉強会

10月から11月にかけて行ったこの勉強会は、スイス移民に関するものである。WEBから英語の資料(スイス統計局、JETRO、Swiss info、政府観光局、新聞、Swiss immigration、ヨーロッパ諸国の移民政策の概況、history of immigrant in Switzerland、移民法 etc)を各自で収集し、その資料に基づいてディベート(現在のスイス政府の移民法改正に賛成 or 反対)をし、その後全員でディスカッションを行った。

以下にディベートの参考として政策賛成派から見た視点を記載する。

テーマ「スイスの外国人法、移民法の改正の是非」

政策賛成派(=移民反対派):新井、加藤、仲田、森

政策反対派(=移民賛成派):大江、木下、垂水、藤平、三好

1.政府の政策について政策反対派の主張

- ・今現在は移民受け入れに消極的でありまた条件が厳格化してきている
- ・単純労働者を入れない。
→技術等を持っているエリートのみを受け入れているのではないか？
- ・スイスはもともと移民の国なのだから
- ・移民と難民は別の観点から議論すべきでは？（意見）
→移民は出稼ぎと同じようなものなのでは？（経済面での困窮が理由）
対して難民は戦火を逃れてなど物理的に自国にいられなくなってしまった人々
- ・少子高齢化の対策になる。
→若年労働者も増加し経済も活性化
（反論-技術流出につながる・外部援助の形でお貢献できるはずでは？）
- ・人道的もしくは倫理的な観点からして誤っているのでは？
（EU内で移民排除の傾向の中スイスもそれに続いていいのか）
- ・長期的スパンでは外交上の成果などによりスイスの利益になる

2.政策賛成派に対する反対派の反論

- ・治安悪化を主張しているが、移民だけが犯罪を起こすわけではない
- ・偏った報道のせいで考え方がステレオタイプになってしまっている
- ・コミュニティーができることでより一層文化の違う移民に接する機会が増え、身近に感じられるようになるのではないか

3. 香港・スイス両 PJ 合同勉強会

12月に各PJが自分たちの調べた香港、スイスの移民事情について報告する香港・スイス両PJ合同勉強会を行った。これにより香港というスイスとは違う移民問題が他国でも存在することを認識できたことは収穫であったと考えている。

発表方法：パワーポイント

内容：①移民に対するこれまでのスタンス（歴史）…木下、仲田、垂水
②移民の現状、統計データ、欧州他国との比較…大江、藤平、三好
③スイスの移民政策、それに対する2つの意見…加藤、新井、森
内容別に3グループに分け、パワーポイント、レジュメを作成。

4. ジョイントフォーラム

テーマについては下記の通り様々な意見が出された。

テーマ案

○マクロ的なもの

・国の利益か・人道的か ・なぜ親 EU なのか ・改正移民法(EU からの移民の国内での位置)

○ミクロ的なもの

・スイス人から見た移民(言語面) ・スイス人としてのアイデンティティとは
・ASA メンバーのバックグラウンド

これらを考慮し実際に行ったジョイントフォーラムが以下のものである。スイス移民法に関する説明を GET が行い、また ASA の学生から彼らのアイデンティティを含め、その率直な意見を述べてもらった後、解決法を探っていくという内容である。

GET2008 Swiss Project Joint Forum in Japan

テーマ「改正移民法」

大まかな流れ：Day1, GET スイス&香港 PJ によるプレゼン→ASA からレクチャー→

二日目のロールプレイングに向けてロール振り分け

Day2, ロールプレイング→グループワークによる新法案の作成→

各グループによる発表→ゲストによる発表の講評・講演

Day1 (2/12)

① プレゼンテーション by GET

- ・ GET スイス PJ 6 名 (新井・木下・垂水・藤平・三好・森) による改正法案内容、欧州他国の政策等、主にスイス勉強会の内容を発表。
- ・ GET スイス PJ 4 名 (大江・加藤・仲田・新田) による日本の移民事情に関する発表。

②レクチャーby ASA

事前に渡した質問に答えてもらう形で、スイスの移民問題についての個々人の意見を述べてもらう。

《ASA メンバーへの質問》

- ・移民に対する感情
- ・スイス人としてのアイデンティティ
- ・ASA への質問メンバー個人のバックグラウンド
- ・スイス国内での民族コミュニティ有無(日本でいうチャイナタウン的なもの)
- ・自分が移民だと意識するとき ←Doruk(ASA のひとりのトルコ系移民)へ
 - ・スイス国内の他の地域の人と何語で会話するのか

- ・個人的な意見として EU に入りたいか
- ・日本人/日本の印象(個人/一般論として)

③二日目に向けてロールプレイングの準備

政府(加藤・木下)・スイス人(新井)・企業(藤平)

移民(技術あり)(森)・移民(技術なし)(新田)

ヨーロッパ移民排出他国(垂水)・ヨーロッパ移民受入他国(大江)

このロールプレイングの狙いは、様々な視点からスイスの移民問題を見ていくこと、移民問題に関して参加者が共通の情報を得ることである。

このグループに ASA の学生を混ぜた上で、日本人・スイス人メンバー混合のグループを作る。この 7 ロールで 2 日目はロールプレイングを行い、その後グループワークによって新移民法案を作成する。

Day2 (2/17)

- ①ロールプレイング：参加者の移民問題に関する共通認識の構築及び問題点を探る。
- ②グループワーク：日本人・スイス人混合で 4 人×5 グループに参加者を分ける。そしてロールプレイングで出た現移民法の問題点を踏まえた上で、ディスカッション等によりパワーポイントをベースとした移民法新法案を作成する。
- ③発表：パワーポイントを使用しての発表。
- ④講評：GET 顧問である一橋大学太田浩先生からグループ発表に対する講評・講演。

ここに、ロールプレイングにおいての各ロールからの最終意見を記載する。

Last opinion from each role

#Unskilled immigrants:

Switzerland has an ageing population. We can be of their benefit, please give us a chance. Why don't you help us and give us some support? Without your help we cannot live a humane life. (Shiho)

If you give us a chance we can contribute to the growth of your economy. (Etsuko)

#Skilled immigrants:

There may still be problems with accepting us because of the language problem. But we have degrees, and we want you to look at these with more respect. (Claudia)

#Donor country:

As a donor country, we are afraid of the brain drain. If the situation continues to be like this, it becomes harder for us to become level with developed countries. We are not a rich country. We have to work on the edge. We want to work more closely with Switzerland. (Doruk)

#Company:

As a Swiss company, we need both skilled and unskilled workers. It depends what types of jobs have vacancy. If we give education to unskilled immigrants it is not to our profit, and thus I feel that we are not responsible for their education. (Kyohei)

#Government:

We need to look into the future. The key word here is sustainability. Accepting unskilled will only solve a short term problem. Only a few will benefit. We are trying to help develop their economy to build schools, and I feel that supporting developing countries in this way is a much better, long term solution. (Jonas)

#Native Swiss:

We want to accept both unskilled and skilled workers but we want all of them to have a job, and for their children to attend school. If they have the motive to integrate then they are welcome to come into Switzerland. (Sascha)

5. ジョイントフォーラムを経ての感想

ジョイントフォーラムについては、具体的なイメージというものが実際に行う前まで浮かばなかったメンバーも多かったと思われる。英語によるプレゼンテーションやディスカッションなど、高校ではもちろん、大学でもそのようなトレーニングを行う授業は少ない。そのことが、今回例えば日本人学生からの発言の少なさなどに反映されてしまったのではないだろうか。その上「移民問題」に対する私たちの知識も必ずしも充分だったとは言えないかもしれない。

しかし、例えそうであったとしても、私たちがこのジョイントフォーラムから得たことは少なくない。スイスの移民にまつわる知識、そしてスイスの学生から彼らが自国の移民についてどのように感じているのか、また ASA メンバーの一人は実際にトルコからの移民として幼いころスイスにやってきたそうだが、彼が自分のアイデンティティをどのように捉えているのかなど、統計資料などからの情報と、実際にスイスの若い学生たちがどのように感じているのかという情報の両面からこの問題を考えることが出来たことは、とても貴重な機会であったし、また非常に興味深い内容であった。また、このように外国の大学・大学院生とフォーラムを開くということ自体も、私たちにとって新鮮であり、彼らに感化された部分も多々あったのではないだろうか。

6. 国連大学訪問

今年度の年間テーマが移民であることから、2008 スイスプロジェクトでは ASA の学生受け入れの際、UN ハウスを訪問させていただき、国際労働事務局及び国連難民高等弁務官事務所の日本事務局の代表の方々からそれぞれブリーフィングをしていただいた。

現在国連がどのような活動を世界で行っているのかについて、難民問題・労働問題の視点からのお話を伺うことができ、ASA メンバー、GET メンバーともに大変興味深い様子であった。

以下はその際の UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）でのブリーフィング内容を抜粋したものである。

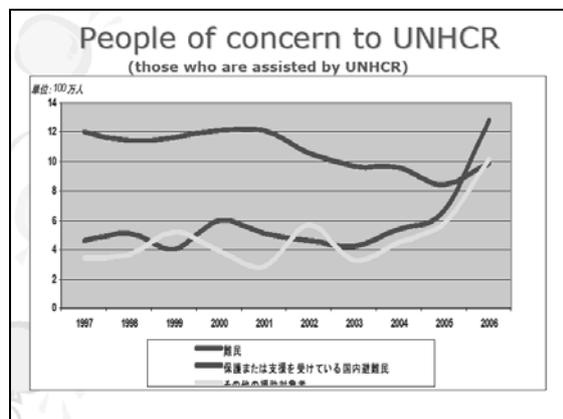
UNHCR and Forced Displacement
Lecture for Hitotsubashi-St.Gallen Univerisites
 15 February 2008
Saburo Takizawa
 UNHCR Representative in Japan

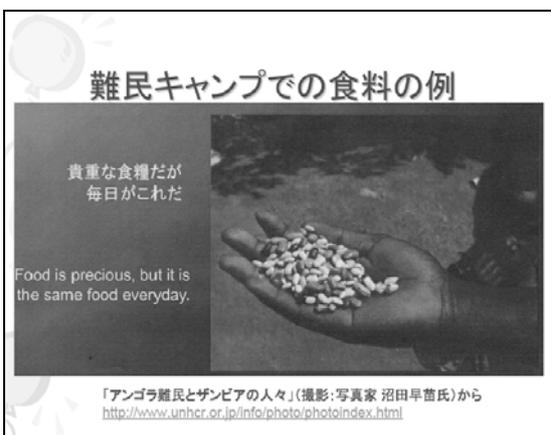
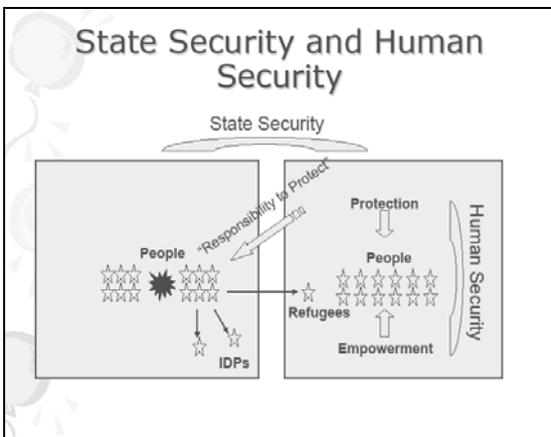
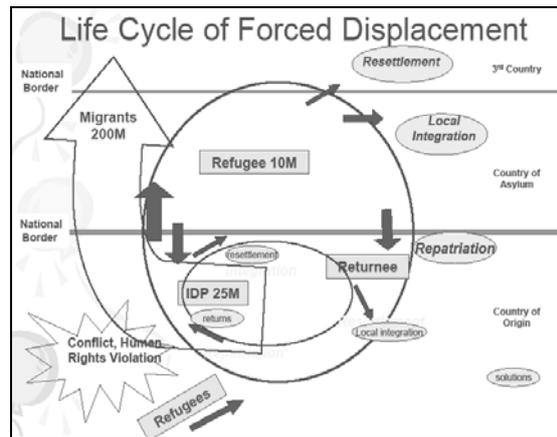
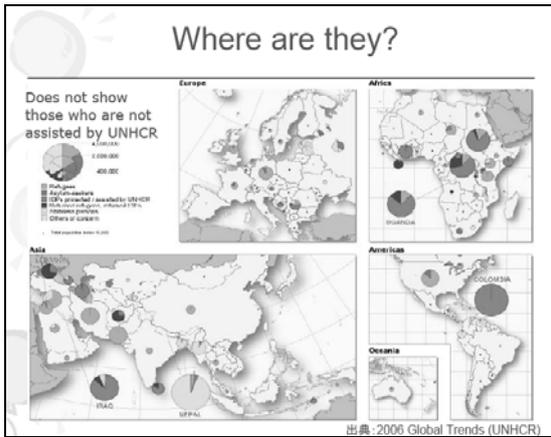
People in Flight

Families flee across a road controlled by the Burmese Army, December 06

Why and how people flee?

- Apparent causes and real causes of flight:
 - Race, religion, nationality, etc. may be mere pretext
 - Real causes could be competition for land, water, power, etc, which have to be addressed by peace builders
- When people flee, they have to decide:
 - Can I flee?
 - Where? With whom?
 - Does the state admit me as refugees?
 - How can I survive in the country of asylum?





- ### PeaceBuilding: End to displacement
- For displaced persons, peace means end to their displacement.
 - Three durable solutions (end to displacement):
 - Voluntary repatriation (best option, if available)
 - Local integration
 - Resettlement
 - Refugees have no freedom to choose solution. IDPs in principle can choose but...
 - Challenges for each solution
 - Conditions in the area of return/resettlement have to be acceptable
 - Challenges to peace builders

以上が GET2008 スイスプロジェクトでの「移民問題」をテーマとした勉強会及びジョイントフォーラムの報告となります。

ジョイントフォーラムの際に協力して下さった GET 顧問の太田先生、また UN ハウス 国連広報センターの宮地様を始めとする国際関係者の方々に感謝いたします。

私の一年間

仲田 陽子

2007年5月から活動を開始して早一年、GET2008の活動が終了しました。私にとってGETでの一年間は、大学生活一年目の全てを打ち込んだ活動ということができます。

GET2008開始当初、初期メンバー6人が集まった内、スイスプロジェクトは計2名でした。私はそこでスイスチーフに就任し、最終的には10人に増えたスイスプロジェクトを総括することとなりました。チーフの仕事は、プロジェクトの総括です。具体的には、スイス側との連絡、毎回のミーティングの企画・進行、プロジェクトメンバーをまとめることなどを行いました。チーフとしての目標である「エクステンジを成功させること」を念頭に、活動してきました。

プロジェクトの全体の進行を常に気にして活動するチーフは、準備期間から四苦八苦することとなりました。プロジェクトの人数が増えて行くにつれて、全体をまとめることが難しくなったことは途中私の頭を悩ませました。またGETの指針である、「0から作り出す一年間」を成功させるためには、チーフがプロジェクトを主導することが不可欠であり、路に迷ったこともありました。10人での意思疎通は、なかなかうまくいかないことも多く、議論を重ねても空回りしてしまうことも頻繁でした。

しかし、そのチーフの仕事から私が学んだことは、自分に頼り過ぎないことです。私は以前にリーダーシップ経験はありました。しかし以前の経験では、自分が全て仕事をやる、といった自分本願の方法だったのでしたが、GETを通して、リーダーとはメンバーに仕事を振る役割であるということ、そして何より、仲間を信頼して一緒に仕事をしていくことが、真の協調性であり、よきリーダーの資質であることを学びました。

私にとって、確かにGETのメインの活動であるエクステンジプログラムは意義あるものでした。パートナーを含め、9人のスイス人メンバーと強い絆を築くことができたこと、初めてのヨーロッパでホームステイという貴重な体験をして、スイスを実際にスイス人の生活に入り込む形で知ることができたこと、そしてともにこれらを経験した日本人メンバーとの絆、どれも私にとって大切なものです。また、エクステンジプログラムそれ自体はもちろん、チーフとして目標に掲げていた、「メンバー全員がエクステンジを楽しみ、そこから何かを得ること。」も成功し、満足しています。

しかし、私がこの一年間GETで何を得たか、というと、やはりチーフとしての経験です。GETは私を成長させてくれました。これから私が人生を歩んでいく上で、ここでつちかった能力は私の強みとして生かされていくことと思います。GETの理念は「自己の発進、社会への発信」ですが、このリーダーシップ能力を社会で実践していくことができると自負しております。

最後にGET、ASAメンバー、そしてGET2008メンバー、支援して下さったすべての方々なしに、私の一年はこのように充実したものにはなりませんでした。本当にありがとうございました。

GET08 スイス PJ を終えて

三好 藍子

スイス訪問が終わり、日本に戻って新歓活動や報告書、引き継ぎ資料についての MTG が多くなっていた 4 月、突然代表から私たちのエントリーシートを渡された。それを読むとエントリー当初の自分がとても恥ずかしくなった。この 1 年間 GET のメンバーの一員として活動して、1 年前の自分と比べ少なからず成長できたのではないかと、という気持ちになった。当時はただ、また外国人と触れたい、数多くのヨーロッパ旅行の中でも行けずに終わってしまったスイスを訪れたい、という気持ちでいっぱいであった。

私は受け入れや訪問をする前はもうひとつ活動しているテニスサークルでレギュラーを狙っていたと考えていた。ただ GET として活動した 1 年間を通して、特に受け入れや訪問を通して、自分はテニスだけではなく他にもしたいことがたくさんあることに気付かされ、レギュラーを狙うのを断念した。スイス人学生の考え方に刺激され考えが変わった部分が大いと思う。私のパートナーの Nadin はとても活発で積極的な女の子で、大学生になる前の 1 年間 gap year を取り、半年はバイトをして資金を稼ぎ、残りの半年を南米でバックパック旅行していたのだ。南米での半年によって自分の考え方は明らかに変わった、と話していた彼女がとてもかっこよく見えた。更に海外に 1 年間留学していたスイス人学生もあり、自分の視野を広げるための努力を個人個人していることがひしひしと伝わってきた。海外に行くことばかりが自分の視野を広げる方法でないのは分かっている。しかし彼らの将来への展望への高さにも驚いた。スイス人メンバーは平均年齢が我々より 3 歳ほど高かったが、インターンシップを行おうと考えているメンバーも多く、自分も今後将来何をしたいか、また新たな物事に挑戦して視野を広げたいと思うきっかけとなった。

受け入れ・訪問の間にスイス人と交わした会話、観光地への旅、食事、おしゃべり、ゲームなどをすべて貴重な体験となった。スイスでの毎日はすべてが新しいこと尽くしで次の日の活動が楽しみでならなかった。訪れる町は多少似通ってはいるがどことなく違い、街中を散策するのがとても好きだった。海外には住んでいたが、住んでいる時とはまた違う視点から海外での生活を見ることができたと思う。何もかもが新鮮で、その反面懐かしい面もあり、と不思議な気持ちにもなった。ただここで言えるのはやはり海外にまた出て勉強や、ボランティア活動などをしたいな、という気持ちが大きくなったことだ。

私はここに書ききれないほどの体験をこの 1 年間と通して得たと思っている。

そして最後となるがこの 1 年間の GET の活動を通してこんなにも素敵な仲間に出会えたことが私は何よりも嬉しい。GET のメンバーで協力しながら 1 年間作り上げてきたプログラムだからこそ私はここまで楽しめて充実した、素敵な日々を過ごせたと思っている。そんなみんなにこの感謝の気持ちを伝えたいです！

スイスプロジェクトを終えての感想

木下 詠津子

スイスプロジェクトへの参加は、私個人にとって GET における 2 年目の活動であり、自分の中における目標は、GET における活動の反省を生かす年、一年次の香港プロジェクトとの違いを体験する年とすることでした。しかし、実際には GET の根底にある精神のようなものに触れることができたのが、二年目における貴重な財産であったように感じます。

プロジェクトの参加するときに、提携先の国や地域の知識を持っているメンバーは多くありません。私も例外なくその一人で、スイス自体に関する知識、ヨーロッパや世界の中におけるスイスの位置づけ・立場などに関する知識などが、浅薄であったことは否めません。今回の参加は二年目であるにも関わらず、それは去年の香港プロジェクト参加時と全く同じ状態でした。これは、ある意味 GET の本質的なところに依拠する現状であると思います。GET はいわゆるアメリカやイギリスといったメジャーな国とは提携をしていません。これは、学生が今までは興味を持ったことがなかった国に目を向けて欲しいという想いによるものです。出発点での状態は、GET において重要なことではありません。無知の上に成り立っているものではありませんが、知らないものを知りたいという好奇心は、GET の歴史を形作ってきた原動力であると思います。メンバーは例外なく、GET のプロジェクトを終えた後に、提携先への思いを深め、新たな「無知」に気づいてそれに挑戦していくようになるのです。

現在の私の中における香港、スイスへの想いは、当初のそれとは全く異なるものとなりました。自分のパートナーの生活している国、自分が訪れた国、これからも何らかの形で関わっていく国、授業中に香港・スイスの話が出てくると、つい身を乗り出して聞いてしまいますし、新聞でその名前を見ると、その記事を熟読してしまいます。GET を通じて得た、私の中の香港・スイスとの関係性はいつまでも続いていくものだと思います。これは、提携先のメンバーたち、一橋の GET のメンバーたちに対しても同様に言えることです。一年完結型の GET のプロジェクトは、GET という名前を脱して、それぞれのメンバーの中で新たなプロジェクトとして発展していくものなのだと感じています。

また、代表という役目につき、プロジェクトの進行や団体全体の運営など、マクロな仕事をできたことも貴重な経験でした。一年間の全体の流れ、メンバーのモチベーションといったものをどうにか調整しようと苦心してきましたが、結局それらは私の手からは離れ、メンバーみんなの力によって動いていきました。私のやってきた多くのことは、仲間を支えられてきました。代表という立場は与える側と思いがちですが、実際のところは、私が一番多くものを仲間からもらった気がします。GET でもらったものをこれから還元できるような人となるのが、私の新 GET プロジェクトの目標です。

GET スイスプロジェクトを終えて

新井 洋平

GET08の活動を終えて、今振り返るといろいろな経験ができた充実感を感じている。企業渉外、勉強会、イベント企画といった相互ホームステイが始まるまでの準備、そしてスイスの学生の受け入れとスイス訪問。このプロジェクトの企画、運営を通して、やり残したこともあったがさまざまなことを学び、多くの事から刺激を受けた。

GETに入る前に、自分たちでこのような大きいプロジェクトを全て企画し運営したことなどなかった。そのため、この活動を通じて初めて一からの企画、運営の難しさを知った。この団体を通して、イベントの開催、企業との金銭渉外や訪問などさまざまなことをしたいと思っていたが、それを実行するに当たってさまざまな壁にぶつかった。想像と現実の違いを知り、自分たちのノウハウ、経験の未熟さを知り、企画、運営に必要な知識を学んだ。また、活動の途中で企画のためにスイス大使館の方などさまざまな方と知り合う機会を得たが、そういった方々に助言をいただいたりパーティー開催といった社会の各方面で働いている人との交流の場を設けられたりして、いろいろな人と交流することで可能性が広がるということも経験した。

また、スイスの学生との相互ホームステイは本当に貴重な経験になった。一緒に暮らすことで、お互いの実生活を知ることができるのがホームステイの最大の利点だと思うが、自分たちのライフスタイルや文化についてパートナーや他のスイス人と話しているうちにむしろ普段はあまり意識しない日本人としてのあり方についても意識し考えるようになった。もちろん、彼らの生活や文化を垣間見られたことも同じ学生として大変興味深かった。また、スイスの学生と話していて、彼らの枠にとらわれない生き方にとっても刺激を受けた。彼らの多くは、海外に出て長い旅行に出たり、勉強をしたりしている。私のパートナーも、この夏インターンシップのためにアジアの国行く予定である。彼らは新しいものに対する好奇心、探究心が非常に強く、行動力がある。そんな彼らと自分を比べ、自分が狭い範囲の世界に生きていることに気がついた。どこか、日本のなかで常識とされている枠にとらわれて生きているのではと思った。漠然と生きていてはいけないと感銘を受けた。最後に、このホームステイでパートナーである Doruk と過ごした時間は忘れられないものであった。とても親切で、親身であり、26歳と年上の彼は精神的にも大人で、大変信頼のおけるパートナーだった。彼とは多くのことを語り合い、考えを言い合ったが、そんなかけがいのない友人ができて、この活動に参加して本当によかったと思う。

今後、GETで経験したさまざまなことをこれからの自分のために精一杯活用していきたいと思う。このような経験をできて、GETに入れて本当によかった。

GET2008 の活動を終えるに当たっての感想

大江 恭平

スイスから帰ってきて約一ヶ月が経った今、振り返ってみると日本・スイスでの両エクステンジプログラムが遠い日々のごとくに思えます。ザンクトガレン大学の学生たちと共に総勢約19名で過ごした日々は、当時とはとにかく必死でしたが今思えば新鮮で驚きに満ちた4週間でした。

ザンクトガレン大学の学生 Jonas と Doruk の2人が自分の家に泊まっていた2週間の間、彼らとは様々な事柄について話をしました。それこそ、あれはうまいこれはまずいや、誰これがかわいいという他愛のない話から、国際政治の話までそれは多岐に渡り、それをつたない英語で必死にこなしていた時というのは大切に貴重な時間だったのだなと今となっては思います。日本・スイスでの4週間を経て彼らと良い友人となれたことは大きな喜びであり、英語力やコミュニケーション力の面における自信ともなりましたが、それ以上に、ある意味においてはこれから先どんな形であれ、この経験が自分の助けとってなっていくのだろうかとは今は漠然と感じています。

こうして日本・スイスでそれぞれ二週間ともに過ごすうちに、自分の中で漠然と形になっていったものがあります。それはそれまで外国人と自分の間に感じていた「壁」のようなものはあってないようなものなのではないか、ということです。今まで自分は外国やそこに住む異国の人々にある種のがれと、それに伴って恐怖感やコンプレックスのようなものを抱いてきました。しかし彼らと過ごすうちに、たとえアイデンティティやバックグラウンドが違っていても共通するものがあること、しかし超えられない「壁」のようなものが多少なりとも存在すること、そしてその壁がたとえ存在しても互いが分かりあうことは可能であることを体の芯から理解していきました。これはこうして言葉にすればとても平凡でありきたりなことのようにも思えますが、今の自分にとっては、これを実感できたことは一歩前進できたことを意味するのではと考えています。

「GET」で1年を通して活動してきた今一番思うことは、この経験がこれから自分にどう作用していくのかという期待と不安です。正直に言えば不安のほうが多くあるでしょう。この経験を風化させずに生かしていけるものが自分にはまだちゃんと見えていないこともその一因です。ただ、国際交流プログラムを自分たちで作り上げたという事実や、同年代のスイス人学生と約1ヶ月ともに過ごし彼らに少なからず感化させられたことなど今回経験した全てのことは、これからの自分にとって必ず有益なものとなることは確かです。

最後に、1年間にわたって訪問・受け入れやその他の活動に協力してくださった企業、国際機関、日本・スイス大使館の方々、日本文化紹介の際多大な協力をしてくださった小平市国際交流協会様、アドバイザーのお二人と顧問である太田浩先生、そして GET2008 をまとめあげてくれた代表と1年間プロジェクトを引っ張ってくれた GET2008 スイスプロジェクトチーフに感謝いたします。

GETでの1年間を終えて

加藤 惟

GET08の活動もほぼ終わりに近づいた今、振り返ってみて、本当にGETに入って良かったと思います。GETを通じて自分自身を成長させて視野を広げたい、というのがGETに入ったときの自分の目標でした。そして今、この目標を達成することができたと自信を持って言えます。しかし、もちろん何もかもが成功したという訳ではなく、むしろ自分は未熟すぎて、課題や反省にぶつかることのほうが多かったです。でも、1年間のミーティングを通じて、少しずつ成長できたのではないかと思います。

年末からは、受け入れの準備で一気に忙しくなり、そこから受け入れ終了までは本当に一瞬でした。同時に一番濃くて充実した時間となりました。

考えてみれば、メールだけの関係だった、国も言葉も違う大学生と、初めて会ったその日からともに過ごし、彼らをもてなした二週間は本当にspecialでした。毎日、狭い1DKで朝から晩までパートナーのJennyと一緒に過ごし、GET、ASAメンバーと顔を合わせ、ASAメンバーと英語でコミュニケーションをとり、スケジュールをこなしていった二週間は、全てが初めての経験で、ホスト側の責任も伴ってとても疲れたけれど、そこから得られた楽しさと達成感とは比べものになりません。Jennyが帰った後数日は、自分の部屋が広く感じるような喪失感がありました。そんなかけがえのない関係を築けたこともとてもうれしかったです。自分の英語力不足も痛感しましたが、それまで持っていた英語への抵抗感が薄れ、英語で話すことを楽しめるようになったのも私にとっては大きな成長です。それに、受け入れを終えてみて、それまでの1年間も意味があったと改めて感じました。

訪問では、初めての海外ということもあり目にするもの全てが新鮮で、目一杯スイスを満喫することができました。ASAメンバーと再会し、GET、ASAメンバーの19人でまた過ごせたことがとても楽しかったです。また、日本にいたときよりもさらに深い語らいができ、広い視野と自分の将来へのビジョンを持ち、様々な経験をしてきている彼らの話を聞いて多くの刺激を受け、自分の世界がそれまでとても狭かったことに気づかされました。

相互ホームステイや異文化交流という経験は、ただの海外旅行ではなくてGETだからこそできたものだと思います。でも、私がGETに入ってよかったと思うのは、こうした経験が得られたこと以上に、この経験を通して本当に多くの刺激を受け、自分自身の視野を広げることができたこと、自分の課題や反省点にぶつかって、そのたびに自分を成長させようと邁進できたことです。一年前、GETに入るのは、当時の自分にとってかなりの挑戦で、本当に大きな一歩でした。でも、その一歩のおかげでこんなに貴重な経験とかけがえのない出会いを得られて、自分はまだまだだなんて痛感しながら、それでも確実にそれまでの自分より成長している自分を実感することができて、自分の世界や可能性が広がりました。これからも、もっと多くの一歩を踏み出していきたいです。

GET2008 を振り返って

藤平 奈那子

Exchange を通して得たもの、インスパイアされたこと、感動した光景、感謝した人、感銘を受けた場面…。これらの数は、数え切れないほどであった。振り返ってみると、受け入れの 2 週間、訪問の 2 週間という短い期間のうちに、圧倒されるほど多くの素晴らしい経験をする事ができた。大学 1 年目の春休みを、本当にかげがえのない思い出の詰まった貴重な時間にする事ができたと思う。

Exchange のパートナーである Desiree は、とてもアクティブで、ポジティブで、自信に満ち溢れている女性であった。窮屈な私の寮部屋を、「私たちの家ね。」と嬉しそうに言ってくれる優しさ、言いたいことや主張すべきことを躊躇なく相手に伝える代わりに、相手の意見や考え方にもとことん耳を貸す姿勢、また、周囲に惑わされない強さ、自分の人生を切り開いていくタフさ、そしてたまにジョークを飛ばすユーモアなど、彼女には尊敬する面がたくさんあった。そのような人と出会い、互いに深く知り合えたのは、とてもラッキーで幸せなことだと心から思う。また、初めての異国の地スイスで、最も強い影響を与えてくれたのは、Desiree の母親であった。彼女は自分の会社を持ち、仕事を愛するやり手のウーマンである一方、子どもと一緒にしゃいで遊んだり、ゆっくり散歩にでかけたりして日々を楽しみ、そして家族をこよなく愛する、キュートでチャーミングでとても魅力的な女性だ。また、Desiree の祖母も弟たちも、とてもファニーで、キュートで、愉快で、私は本当に素敵な家族の中で生活する事ができたと感じている。

プロジェクトを通して 1 番感じるのは、日本人メンバーは勿論、パートナーである Desiree をはじめとする 9 人のスイスメンバー、そして Desiree の家族と出会う事ができて、本当に良かったということだ。全く異質なストーリーを生きてきたそれぞれの人間が、それぞれの人生の 1 ページで出会う事ができた。出会って、互いに影響し合い、そして考え、またそれぞれの人生に活かしていく。それはとてもワンダフルでエキサイティングで、素敵な体験だと思う。

このような貴重な時間を得る事ができ、GET2008 の仲間たちと過ごした 1 年間は、とても充実した時間であった。自分の人生は、自分で切り開かなければ決してカラフルには色付かないし、外の空気に飛び込まなければ、一生知らずに終わってしまうようなことがこの世界には溢れている。世界にはいろいろな人がいて良いし、だからこそ、彼らに出会うことはこの上なくエキサイティングで、それは人生の醍醐味の一つとも言えるのではないか。1 年間を終えて、机上の理論だけでは知ることのできないことを、もっと知りたいと強く感じるようになった。さまざまなことを取り込んだ GET2008 だった。

GETの活動を終えて

垂水 勇大

日本とスイスで過ごした濃密な四週間は私にとって素晴らしい経験となった。最初はメールのやり取りしかした事がなくほとんど他人だった十人の日本人と九人のスイス人が、日本で二週間、スイスで二週間毎日顔を合わせていると、互いにキャラクターを理解し、言語、国籍を越えて友人以上の関係を作り上げることができた。特に自分のパートナーであった Sascha とは、本当に親密な関係を築き上げることができた。

彼に最初に出会った日のことは、今でも鮮明に思い出すことができる。その日は東京では滅多にない大雪が降っており、私は彼を駅まで迎えに行った。私の家に着き、お互いまだ慣れない様子で、日本の第一印象はどう、箸は使うことができるのか、といった類の話を私の拙い英語で必死に会話したことを覚えている。それから二週間は日本で一緒に過ごし、彼の人間性、人生に対する考え方などを知ることができた。昼間のプログラム中に全員で行動している際にも知ることができたが、やはり多くの部分はプログラムが終わり夜二人きりで私の家にいる時にした会話などから知ることが多かったように思う。スイスに訪問した際には、お互いが既に深く理解し合った友人として会うことができた。

私はバンドサークルにも所属しているのだが、それだけでは物足りなさを感じ、大学生でしか出来ないようなアカデミックな活動をしてみたいという思いから GET に入った。また、自分の英語力がどれほど通用するのかを実際に試してみたいという思いもあった。さらに、私にとってはホームステイをすること自体も初めての経験であり、そのような今までにない経験をすることによって GET の活動をやり終えた後、何かが自分の中に生まれてくることを期待していた。

今 GET の活動を終え、何が自分の中に生まれたかと自問すれば正直、答えはわからない。ただ、活動を通して多くのことを学ぶことができたことは確かである。十九人という大人数を統率することの難しさ、スイス人と日本人の考え方の違い、彼らの自分の将来に対する考え方、自分の英語力の無さ、など挙げていくときりがない程多くのことを学ぶことができた。さらに、私は多くの新しい友人を作ることができ、パートナーの Sascha とは、スイスで別れる際に再びどこかで会うことを誓い合った。

GET を通して私は多くのものを得ることができた。今私がすべきことは、それをただの思い出として忘れ去ってしまうのではなく、自分の将来への糧として生かしていくことだと感じている。次に Sascha と再会するときには、ひとまわり大きくなった自分を彼に見せられるように、日々努力していこうと思う。

最後に、GET 代表、スイスチーフを始め、顧問の太田先生、そして GET2008 スイスメンバー全員に感謝の意を述べたい。

GETの活動を終えて

森 泰樹

今回のGETの活動を通して様々な刺激を得ることが出来た。自分は体育会水泳部と投資サークルTOWALYにも兼部・兼サーをしているが、そのいずれとも違う貴重な刺激をGETで体験する事が出来た。

2週間ずつの交換ホームステイは、絶対に旅行では築き上げる事の出来ない密な人間関係を作り出すことが出来、互いの考えや価値観を交わす場を沢山持つことが出来る。私にとって海外は初めての経験で、まして1ヵ月ものホームステイも初めてだったが、プログラム中いろいろなことを話していく中でスイス人たちの考え方や生き方に学ぶことは沢山あったし、視野を広く持つことの大切さを教わった。これは単なる旅行にはまねできない点であると思う。普通に大学を出て就職するのではなく、休学して留学やインターンシップに行ったり、NGOに参加したりと、大学を4年間で捉えず自分の進みたい道に向って行く姿勢には共感する点が多くあった。また訪問中に北京大学の学生と交流でき、同じアジアでありながら全く違う価値観を持つ彼らと話をすることで学ぶことも沢山あった。特に感じたのは日本人が自国についてあまりに知らなさ過ぎることだった。高校の授業で歴史を選択してしていないに関らず、興味を持ち日本について学ぶことの重要性を感じる事が出来たのも収穫であったと思う。

また英語力に大きな差を感じる事が出来たのも良い刺激だった。商社系に進みたい私にとって英語は必須であり、その至らなさを感じさせてくれたGETは本当に有り難くこれから英語を学ぶモチベーションにも繋がっていくと思う。

最後に、秋新勸の僕をGETに溶け込めるようにと尽力して下さいました木下代表はじめGETの皆さんには本当に感謝しています。GETに入った事で絆の固い友人を得ることが出来た様に思います。本当にありがとうございました。

プロジェクトを通しての感想

新田 志帆

私がこのPJに参加したのは全メンバーで最後でしたが、このプロジェクトを通して大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。一緒にプロジェクトをやり抜いたメンバーは友人というよりむしろ戦友のように感じられ、あらゆる困難に共に立ち向かう仲間であったといえると思います。しかし、困難のみならず喜びや感動を共有できたことにこそ、このプロジェクトの醍醐味がありました。そのような仲間に出会えたこと、プロジェクトとしては異例の終盤での参加を認めていただいたメンバー全員に感謝をしたいと思います。

私は、以前ドイツPJにも参加した経験があるのですが、その当時に比べO7GETチームは、チームとしてよりまとまっていたように感じました。それぞれが責任を担い、かといってスタンドプレーに走るわけではなく、それがチームとしてまとまっているような、最高のチームであったと思います。その活動に当初から参加出来なかったのは残念でしたが、それでも皆温かく迎えてくれ、活動を共にできたことは大きな財産です。

また、今回このプログラムを共に作り上げてきたASAのスイスメンバーと出会えたこと、日本・スイスプログラムでの1ヶ月という時間を共有できたことは、GETでの活動を通してしか得られなかった経験であったと思います。地球の裏側に住むチームメイトと同じプログラムを作り上げ、その集大成として1ヶ月のプログラムを共に共有する、本当に不思議な経験であったと思います。全くバックグラウンドの違う学生、違う価値観を持ったスイスの学生と、他愛もない会話から、将来のビジョンまで色々なことを話すことができました。自分が当たり前だと思っていた価値観とは全く違う価値観に触れ、それは自分にとって良い刺激となり、また自分の価値観・感性をよりフレキシブルなものへと変えてくれました。自分の将来にとっても良い契機となったと思います。

今こうして振り返ると、この活動を通して得たものというのは、ひとえにこのプログラムの交流の濃さに起因するものであるように感じられ、それは普通の語学研修や異文化体験などでは得られなかった、GETという活動の一つの特異性であったように思います。このような素晴らしい体験を多くの人々に広め、一人でも多くの学生にこのような場を提供できるよう、これからもGETという活動には関わっていきたいと思います。

人生は一期一会といいますが、この貴重な一期一会を自分の生涯の財産とし、日本人・スイス人メンバーとは最高のパートナーとしてこれからも親交を続けていけたらなと思います。本当に皆さんお疲れ様でした。そしてありがとう。